幌加内町まちづくりビジョン　報告書

令和４年 (2022)2 月策定

幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ

目　次

はじめに ……1

第1章　ビジョンの方向性 ……2

1-1　WSの構成・検討項目……3

1-2　WSの進め方……5

1-3　ビジョン策定のための意見交換 ……6

1-4　ビジョンの理念 ……9

1-5　ビジョンのコンセプト……10

第2章　提言Ⅰ「住みやすい町」への提言 ……11

2-1　現状の把握と問題の抽出……12

2-2　「住みやすい町」への9つの提言 ……13

第3章　提言Ⅱ「そばのブランド化」への提言……35

3-1　現状の把握と問題の抽出・提言……36

第4章　提言Ⅲ「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への提言……37

4-1　現状の把握と問題の抽出……38

4-2　「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への7つの提言 ……39

第5章　提言Ⅳ「人材の育成・外部人材の活用」への提言……59

5-1　提言Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのための人材について……60

5-2　各コーディネーターの役割・活動イメージ……62

第6章　提言Ⅴ　オズからの提言……64

6-1　オズからの提言……65

第7章　時勢と地域に応じた取り組み ……68

7-1　SDGsへの取り組み ……69

7-2　コロナ対策への取り組み……71

委員名簿 ……72

最後に……73

はじめに

“森と湖と白い大地のまち”幌加内町は朱鞠内湖の自然景観、そば畑と白樺の木と雪の白色に囲まれ、“聖地”と呼ぶに相応しい美しいまちです。

その美しい幌加内町にも、人口が減少に転じ、高齢化が進む社会情勢の変化の波が押し寄せています。これにより今後町の財政状況は一層厳しくなると思われ、幌加内町では多くの公共施設が建てられてきましたが、その維持管理が難しくなると予想されます。

幌加内町の行政を進めていくうえで様々な計画があります。この計画は町主導型の策定方法のため、必ずしも町民の意見を反映している訳ではありませんでした。今回の「幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ(以下WS)」は、新たなビジョンを策定するに当たって、町の財政を圧迫するような計画とすることはできず、将来的に影響を受ける次の若い世代の意見を直接聞くことを目的として実施されたものです。

幌加内町の地方創生の柱には、そば、朱鞠内湖、そして幌加内高等学校があります。WS 策定委員にはそれも踏まえて、幌加内高等学校の関係者にも参加していただきました。その他各界あらゆる立ち位置にある人たち、男女比率も半々という、このようなメンバー構成で町民が意見交換をする機会はこれまで無く、初めての試みとなります。これは幌加内町のような小さな町でしか成しえなかったことです。

今回の WS では、これからの幌加内町に住む人が、長く住み続けられるまちになるように幌加内町の魅力を発信して、地方創生・関係人口の増加・定住人口の増加のためにはどうしたらよいかについて、次代を担う若い世代の忌憚ない意見を求めています。

■背景

町では「幌加内町立国保病院跡地の利活用」については利活用の決め手がないこと、財政状況の悪化等から保留されています。

また低利用の中央公民館についても、耐震化改修を含めた大規模改修による「町民交流施設」等への転換について検討を行いましたが、当初描いた賑わいと交流機能の縮小や高額な改修費及び有利な財源確保が厳しい状況により、白紙撤回となっています。

※「幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ」(概要説明)
R03.04.12より

このような背景を受けて、将来の人口推計を見据えた「まちづくりビジョン(以下ビジョン)」を策定するため「幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ(以下WS)」を設置し、本町の将来の人口減少を見据えた中心市街地の在り方及び朱鞠内湖周辺の観光施設について調査及び検討を行い、ビジョン策定に係る本提案書を作成したものです。

※幌加内町まちづくり策定ワークショップ設置要綱より

第 1 章　ビジョンの方向性

当WSの構成

当WSにおける、町長より委嘱された委員の構成は以下の通りです。

・町議会議員
・農村水産業関係者
・商工観光業関係者
・子育て世代及び子育て支援関係者
・高齢者支援関係者
・教育関係者
・町職員
・その他町長が特に必要と認めた者
　・幌高生代表
　・高校魅力化コーディネーター

※幌加内町まちづくりビジョンワークショップ委員名簿参照

当WSの検討項目

当WSは「幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ」(概要説明)R03.04.12に示された以下の項目をベースに、5年から10年先を見据えて、これからの幌加内町が住んでいる人が長く住み続けられる町になるよう、幌加内町の魅力を発信して地方創生・関係人口の増加・定住人口の増加のためにどうしたら良いかといったビジョンを検討しています。

■町民が求める施設の在り方について

・複合施設または単独施設とするか
・市街地空洞化空地の利用について
・町民が必要とし、喜びを実感できる施設
・世代を問わず町民が気軽にいつでも交流できる施設
ex.)・既存Aコープとコンビニの共同店舗の新設
　・町民交流施設(屋内幼児児童遊具完備、バス待合所完備)
　・金融機関店舗の入居
　・物産施設
　・上層階に住居または宿泊施設
・既存施設の有効活用
・その他課題とされる公共施設等の検討
ex.)・農産加工総合センター(そば加工工場)
　・高齢者コミュニティセンター
　・学童保育所
　・地域づくり拠点施設
　・そば道場
　・公営住宅の更新整備
　・教員住宅の更新整備
　・1000年に一度の水害に耐え得る防災拠点施設
　・その他公共施設以外(空き住宅等)

また検討に当たり以下の事項を留意しています。

　・人口推計によるまちづくり
　・移住促進によるまちづくり
　・財政状況を考慮したまちづくり

■朱鞠内湖周辺施設の現状と課題

・レークハウスしゅまりない・・・朱鞠内湖拠点施設としての整備
・朱鞠内湖畔キャンプ場・・・時代と景観に配慮した整備
・ふれあいの家「まどか」・・・利活用に伴う大規模改修
・朱鞠内コミュニティ公園・・・パークゴルフ場(以下PG場)以外の利用方法の検討
・母子里クリスタルパーク・・・有効活用の検討

上記の現状を踏まえて、持続可能な観光産業として確立と地域雇用の確保による人口減少を食い止めるための検討を行います。

既存各公共施設・各跡地の現状と課題については、「幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ」(概要説明)R03.04.12に挙げられている項目を、サービス、人・運営、場の3つに分野に分け、WS内で整理しました。以下はそのまとめです。

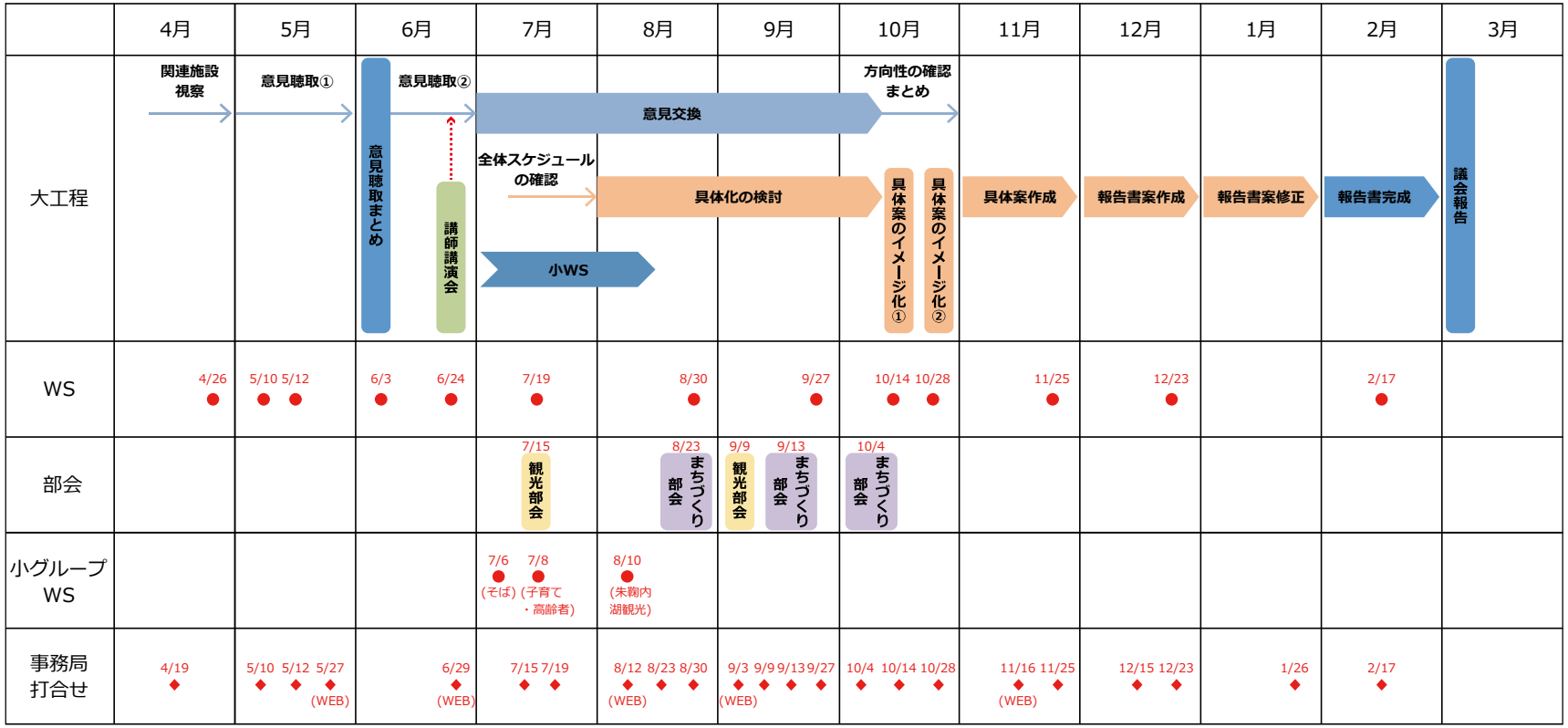
	町長検討事項（町民が求める施設）	その他課題とされている公共施設	今後解体を見込む公共施設	検討にあたり留意すべき事項	朱鞠内湖周辺観光施設の現状と課題	朱鞠内湖周辺観光施設の望まれるビジョン	朱鞠内湖周辺観光施設の検討事項
サービス	・バス待合所 ・金融機関店舗の入居						
人・運営	・町民が喜びを実感できる施設 ・町民が気軽にいつでも交流できる施設 （①Aコープとコンビニの共同店舗 ②町民交流施設(屋内幼児児童遊具完備、バス待合所完備) ③金融機関店舗の入居 ④物産施設(第2の道の駅) ⑤上層階に住居又は宿泊施設） ・既存施設の有効利用	・空き家、中古住宅の管理体制		・人口推計によるまちづくり ・移住促進によるまちづくり ・財政状況も考慮したまちづくり	・湖畔広場有効利用 ・母子里クリスタルパークの有効活用	・持続可能な観光産業の確立	・朱鞠内コミュニティ公園の有効活用法 ・母子里クリスタルパークの有効活用法
場	・複合施設又は単独施設 ・市街地町有地、空洞化空地利用 ・既存施設の有効利用	・そば加工工場 ・そば道場 ・高齢者コミュニティセンター建替 ・学童保育所 ・地域づくり拠点施設(地域交流スペース「ふらっと」) ・公営住宅の更新整備 ・教員住宅の更新整備 ・防災拠点施設	・中央生活改善センター ・旧土地改良推進本部施設 ・老朽化した公営住宅、教員住宅等		・レークハウス改修新築 ・キャンプ場再整備 ・湖畔広場有効利用 ・まどか大規模改修 ・朱鞠内コミュニティ公園PG場の利用方法 ・母子里クリスタルパークの有効活用		・レークハウス及び朱鞠内研修センター改修、新築 ・まどか有効活用法 ・朱鞠内湖畔キャンプ場施設の改修 ・朱鞠内湖畔公園の景観整備 ・朱鞠内コミュニティ公園の有効活用法 ・母子里クリスタルパークの有効活用法

1-2　WS の進め方

前述の検討項目をベースとしたビジョンを策定するに当たり、毎月1回のWS開催を基本として以下のマイルストーンを設定して議論を進めました。

2021年	4月	WS顔合わせ及び関連施設の視察
	5～6月	各委員からの意見聴取
	7～9月	各委員からの意見聴取をもとにした意見交換
	8～10月始	意見交換にもとづく具体的なビジョンの検討
	10月	意見交換にもとづくビジョンの方向性の確認・取りまとめ
		ビジョンの具体案のイメージ化(スケッチ等による検討・確認)
	11月	ビジョンの具体案 作成
	12月	ビジョンの報告書案 作成
	1月	ビジョンの報告書案 修正
	2月	ビジョンの報告書 完成
	3月	議会報告

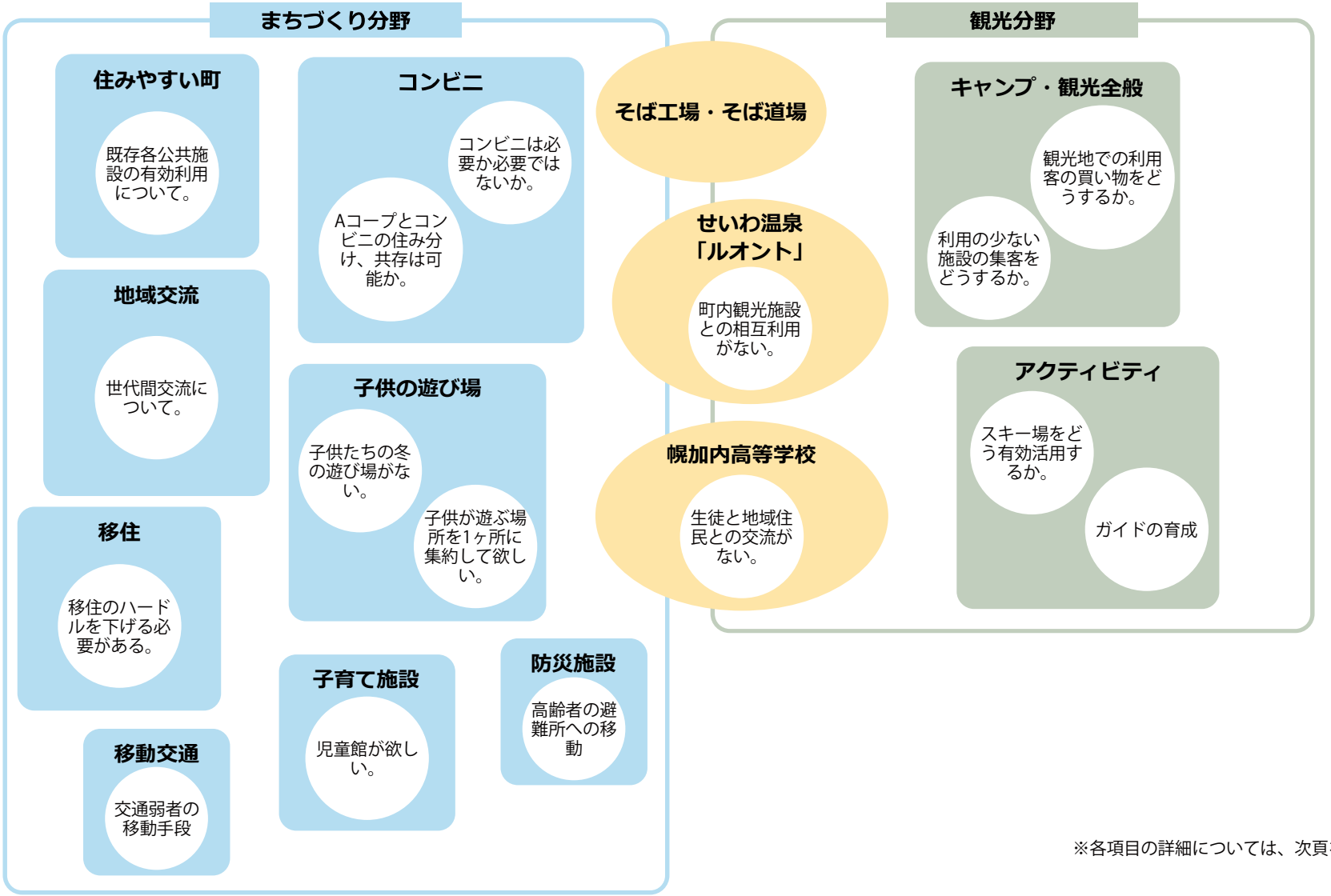
また 7 ～ 10 月には、WS と並行してまちづくり部会と観光部会を開催し、各々のビジョンに関する議論を更に進めました。



1-3　ビジョン策定のための意見交換 -1

WSでは前述の検討項目について、各WS委員が日頃感じている要望・不安等を共有することから始め、5年から10年後へのビジョンに繋げることを目指しました。以下は各委員の発言を「まちづくり分野」「観光分野」に分け整理したものです。

「そば工場・そば道場」「せいわ温泉ルオント」「幌加内高等学校」については、まちづくり/観光の両面に関わる検討と位置付けられると考えます。



※各項目の詳細については、次頁を参照

●意見交換詳細 -1

まちづくり分野

コンビニ

・コンビニは、個人的には無くても良いが、若い人の意見を聞くと必要なのかと思う。
・コンビニは必要だと思う。しかし、Aコープと被るものが多い。道の駅とセットでコンビニを考えても良い（幌加内の中心）。町内の集客が難しくなるかもしれないが、総体利用者は増えるのではないか。
・コンビニがあったら便利。
・Aコープ・コンビニの共同店舗があると良い。
・コンビニもあると使うがそれほど必要ない。
・高校生にはコンビニが必要。（コンビニでなければできないことが多々ある。）

住みやすい町

・人口減、財政厳しい、公共施設は集約・減少させるべき。使う施設は小さくして良い、住んでいる人にお金を使ってほしい。
・町長提示事項、考えていることもどうしていくのか。財政的なことも考えなければならない。
・アルクとつながった居住住宅、高齢者から子育て世代まで交流できる施設。そこを通らないと居住に行けないような施設。若い人が高齢者の面倒を見るシステム。施設は、バラバラでは無く雪の心配のない集合施設で良い。
・集約してしまうと市街地の空洞化にもなってしまうが。
・冬期間の生活が大変、どういう改善方法があるかが課題。

移動交通

・がん検診などで北部地域の人の移動が大変。送迎できる方法があれば良いと思う。
・妊婦が出産間近に深夜不安を抱えている。出産前宿泊など助成措置もあるが、移動手段があると安心して暮らせる。65歳以上は社協などで対応がある。
・幌高生はスキー場を無料で利用できるが、移動手段が無い。送迎があれば、まだまだ使える。

防災施設

・高齢者の防災避難所をどのように考えるか。公民館等の改修により必要と考える。
・千年に一度の水害に備えて、２～３階建ての避難施設を既存施設で改修整備すべき。
・（洪水）避難する場所はある。2階建ての建物（アカゲラなど）水はいつかは引く。長期滞在は想定ない。

子育て施設

・沼田小学校のように学校併設の学童があると良い。（騒いでも良し、屋内外遊べるスペースがある。運営に教員は関わらない様にしなければならない。）
・学童保育は遊びやすい環境ではない。子供たちが遊びやすい環境が必要。
・子供用の病院が必要。子育て世代は、皆町外の小児科に行く。
・児童館が欲しい。子供の数が少ないので１か所で遊べる施設。アグリなどは、都度申し込みが必要で使い勝手が悪い。子供開放時間が欲しい。子供が自由に出入りできるように改善して欲しい。（管理が緩い施設）

地域交流

・自分はアートフェスに関わっているが、まさに地域交流、世代間交流の場（スペース）となっている。
・ふらっとを開設しているが、冬季、除雪の問題もあるので、既にあるアルク・あえる和室など使うとか、使っていない施設を有効活用しなければならない。
・デイサービスも土日は使っていないので、警備の問題もあるが、使えるように考えればよい。
・地域拠点施設は何をするための施設かよくわからない。カフェがあると母子も集える。運営側の思いが伝わらない。

子供の遊び場

・子供たちの遊ぶ集まれる場所が少ない。
・（子供）遊び方によって場所を移動しなければならない。一か所に集約して欲しい。夏は外で遊べるが冬に遊ぶ場所が無い。
・テルケアを建てて公園が無くなった。子供（乳幼児）が遊べる場所が無い。

移住

・移住したくても仕事が無い。
・雪も多い、寒いので「雪」を研究する施設の誘致で人口増。
・移住者が必要、住宅、除雪など移住ハードルを下げる必要がある。
・9年前移住。不安あったが、住めば都。住みやすいところ。移住を決めるまで、入ってくるまでが大変。
・移住者が町を選ぶ時代。町が移住レースに参戦するのは、かなり困難。参戦するのであれば、他の町と違う思考、アイディアが必要。

せいわ温泉「ルオント」

・改修した使い方をもっと工夫すべき。（キャンピングカーを受け入れられるようにする）
・RVパーク、オートサイト、キャンピングカー、車中泊者用にクリスタルパーク、ルオント周辺（拡大する）を使った方が良い。朱鞠内コミュニティ公園は、湖にキャンプ場があるから用途が違う感じがする。
・リニューアルしたが、レストランから厨房が見える。改善が必要。
・子供が多いと狭い。騒げない。
・100年記念公園はルオントまで遠い。スキー場なら日帰り風呂も可能だが、相互利用が無い。

町民の保養施設

観光客利用

そば工場・そば道場

アートフェス

幌加内高等学校

町民との交流

・80%寮生。卒業後、町に残らない。残れない。例年1名程度。町への恩返しは生徒が残る事。
・コンビニなど、アルバイト先が無い。地域住民とつながり度。町への恩返しは生徒が残る事。
・高校教員は、町内に住んでいる教員が多い。小中は通勤が多い。教職員が率先して地域とのつながりる事が必要。
・幌高生が卒業後、幌加内に残らない。就農できない。就農先が無い。
・幌高生と地域住民とのかかわりが少ない。商店会はあるが、それでは足りない。
・一人一人が町民の方々と関われば、もっと住みやすい幌加内での生活を送ることができる。
・福島県出身、県内には町立高校は無く県立しかない。

観光資源を利用した教育

町外者との賑わい

観光分野

キャンプ・観光全般

・キャンプ場に来てもお金を落とす場所が無い。
・朱鞠内湖はキャンプで集客している。流行るところはキャンプ場とホテル併設が多い。高級ホテルも目立つ。お金持ちにターゲットを絞る。
・ターゲットを絞った観光を目指した方が良い。
・宿泊施設ではない滞在できる仕組みが必要。
・キャンプ客は多いが、温泉・買物など移動が遠く不便、ガソリンも買えない。生活がしにくい宣伝できない。
・観光ハイシーズンだけでも良いので、買物ができる仕組みがあると良い。移動販売車など。
・観光は朱鞠内湖中心に考えた方が良い。
・自然が豊か、そばもある。他の観光地には無いものがある。
・アウトドアブーム、町内でお金を落としてもらうシステム・仕掛けが必要。
・日本一の蕎麦は、町民が町外へ向けてPRしていく必要がある。）
・交流プラザのそば屋なども夏だけ繁盛。冬は閑古鳥。北竜町サンフラワーパークのようにひまわりの時期だけ飲食店などができる施設があると良い。（2居住移住）

その他アクティビティ

・冬のガイド育成が必要。高くても客は来る。バックカントリーなど、町外からガイドが入っている。
・冬が問題。（スキーしない）
・スキー場町有林になった。谷合をコースにすると面白いコースができる。お金を落とせるか？はちょっと違うかもしれない。
・スキー場ナイターが無いので合宿には不向き。どうせなら全面非圧雪にしてしまう。
・最近のまどかの使い方が気になる。
・江丹別峠など以前は、外国人がすごかった。ガイドを付けて沢山来ていた。稼げる。
・観光資源があるがガイド、システムが必要。人材を育てなければならない。
・源流体験、イトウの養殖場、朱鞠内湖ワカサギ釣り、スノーモービル、湖上ピザ作りなど、アクティビティーを教育旅行パッケージなどで売り込む。
・スノーモービルは楽しかったので一体感が生まれる。非常に楽しかった。
・スキー場の営業時間延長、土曜だけでもナイターが欲しい。

●意見交換詳細 -2

住みやすい町

・政和の住民は60～70歳代が多いが皆町外へ引越しをしていく、個人で通院が大変。将来自分達も子供が居なければ政和には住めない。住みやすい町とは何か。
・子供の通院がしやすいところ。皆旭川へ連れていく。（＝子育てしやすいところ。）
・点在する施設を１か所に集約しても良いのではないかと思う。
・既存施設が生かされていないところが多々ある。
・人口は減少しているが、他の町に比べ幌加内町行政は手厚いと思っている。
・人口減少を止めるため、転出人口を減らすのか、移住者を増やすのか。
・街中に活性化が必要（行く場所が無い。）
・幌加内町は住みやすいところ。保育料無償化。ルオントもジェイ・アールバス利用で使っている。ワカサギ釣りも家族で行く。
・幌加内は冬をどのように過ごせるかが問題。
・自分は冬になると自動車を運転しない。冬に出られなくなる。（公共交通が乏しい。）

コンビニ

・コンビニ、Aコープ２択の場合は、大半の方が無くても良いと回答。
・Aコープ営業時間の延長（5～23時など）をして欲しい。
・Aコープ品揃えが少ない。多くして欲しい。
・サツドラ・ツルハなどでも代替できるのではないか。
・さしみ、弁当など充実していれば、スーパーで良い。
・コンビニに求めるものは、料金支払いとATM。
・Aコープ弁当の品揃えの充実。
・道内最後までコンビニの無い町で話題性作る。
・コンビニあるとお金も人も流れが変わる、商売的に無い方が良い。
・北部には、商店で良いから物が買える店が欲しい。（飲料水自販機しかない。）
・コンビニは運営側も採算が難しいのではないか。
・幌高生はアマゾンカード（ネット通販）で支払いをする。検定料金をコンビニで支払う。8割寮生、実家に帰るタイミングがなければ、支払いできない。
・生活雑貨はAコープでは足りないものがある。なのでコンビニが必要。
・帰省費が結構かかるので、毎回帰れない生徒もいる。コンビニのある街でできることを幌加内でもできるようにして欲しい。
・主婦目線としては、Aコープとコンビニの合体店舗があると良い。鮮魚、刺身など購入したい。コンビニには無い。
・Aコープ19時までが問題。独身、車が無い人が夜間、残業時（22時）に利用したい。24時間じゃなくて良い。弁当、おにぎりの充実。
・就職、移住を考えた時もコンビニは有利にはたらく。早朝、深夜に立ち寄れる（通行車両が使える）店が必要。

移動交通

・天塩町が若い世代の移動時に登録制で高齢者の買い物などを助けている取り組みをやっている。町も取り組めないかバスなどは定時運行だが、便数少ない。不定期（乗りたい時に）に使える方法。（ライドシェア）
・バス、ほろみん号のステップアップをするなら、タクシー、ハイヤーのような仕組みになってしまう。

防災施設

・（東日本大震災を経験して）原発時の事を参考に考えると、一施設に集めるのではなく分散（小グループ）して避難する方が良い。避難者のニーズや支援物資の配給など、細かく対応できる程度が良い。大きいと混乱する。配給元（役場など）は、分散するのではなく集約しておいた方が良い。
・ブラックアウト時など、日ごろ集まっている自治区会館等で避難する方が良いと感じる。どこまで対応できることになっているのか確認する必要がある。

子育て施設

・外遊びを考えるなら山村広場付近が良い。
・学童は狭い。小学生になると体格も良くなる。定員を決めないと対応できない状況。各家庭の事情もある。政和地域は子供が１名。政和の１名は、学童に入れなければ遊べない。人間関係形成もある。現施設は、小学校から遠い。アグリあたりが丁度良い。無料で、皆でと言うよりは、小グループで各自遊べて、勉強もできるような施設。学童がたまり場と化している。保育園園庭内では、園側の事故責任が伴う。子供だけで遊ばせるわけにはいかない。園児でなければ常に先生は付いていられない。

移住

・移住にはハードルが高い。下げる必要がある。
・某市はTVコマーシャルで移住PRしているが、人口が増えているとは思えない。
・海外４か国、国内２地域移住生活してきた。自分が移住者なので移住者と接点が多い。
・とがらないと移住者は興味を持たない。
・美瑛町街並みが綺麗、そろっている。
・西興部村壁が黄色に統一されてる。黄色だと補助金が出る。面白い。
・町にストーリー性を持たせる。気になる看板を転々と作る。（何→ここって→ホースセンターにたどり着く）
・（逆転の発想）朱鞠内湖は看板を一切なくしたらどうかと言う検討をしている。

子供の遊び場

・温水プールがあると良いという意見あるが、現実、某市温水プールも一般利用者が少なくて大変な運営、幌加内には作らない方が良い。
・スキー場に、子供の遊ぶ場所（雪山など）。
・（子供向け）冬季に屋内施設を希望する意見もあるが、個人的には冬に屋外で遊ぶのが良い経験になると思う。一方屋外ばかりともならないので、温水プールがあると大人も使えるので良い。
・鷹栖町は排雪場で子ども用滑り台を作っている。
・自分が自宅を建て、引っ越しをした。冬でも雪山を作り子供が安全に遊ぶ場所を作れている。プールがあると大人も使えるので良い。
・子供の勉強は図書館でできるが、ホールに椅子テーブルを置いても騒ぐと怒られるので、静かにしていなければならない。学習センターにはゲームをしに行くだけ。騒いでも騒がなくても良い、運動しても良い場所が１か所で必要。
・ふれあい保育も開催しているが、コロナで集まりにくい遊びに行けない。保育園では緊張して遊べない。（秩父別）チックルまでのものは必要無い。小さくて良いので気軽にお母さんも集まり、乳幼児も遊べる場所、遊具が必要。学習センターにはゲームをしに行くだけ。騒いでも騒がなくても良い、運動しても良い場所が１か所で必要。
・山村広場の遊具は、未満児向けではない。
・遊び場遊具は、事故発生の場合は、管理責任も出てくることに注意が必要。
・児童館が難しいなら、アグリの自由解放時間を作り、バトミントンのネットも張ってあったり、卓球台も使えるし。
・秩父別町チックルの様なものは幌加内は難しいが、屋内で遊べる環境が欲しい。学童と児童館、体育館などが合体したような施設が欲しい。
・夏場は山村広場なりあるが、冬場の遊び場が無い。学童も3年生（20名）まで。行き場のない子供がいる。
・１箇所で遊べると親も安心。携帯も無い。
・あえるは、騒げない。飲食もできない。

キャンプ・観光全般

・入込が少ない施設を誰が、どの様に改善すれば良いのか。考えなければならない。
・町のイメージとして観光が無い。
・２月に観光協会で道新テレビ欄の下にそば畑の広告を出した。広告時期（冬に2度雪が見れる）が悪い。夏にすべき。ペルソナ設定が悪い。
・キッチンカーで夏だけ、売店、そばを売るシステムがあると魅力が出る。キッチンカーイベントを行う。
・幌加内町はドライブスルーの町（通過型）立ち止まってもらうアイディアが必要（例：西興部村の様なアートな町）
・北部方面には、お任せ便が走っている。観光ハイシーズンに収益につながるようキャンプ場などに行ってもらえば、利用者も助かる。
・固定店舗ではなく、トレーラーハウスでの期間限定販売ができないか。

地域交流

・幌高生寮生は町内会に属しているのか（属していない。）町内会や自治区イベントに招待する。大人が声をかけなければダメ（始まらない）。それがつながり（交流）の始まり。
・子供の遊び場や学童保育で子どもの見守りを幌高生がやれないか？保育士を目指す生徒もいる。生徒と子供（親）の関わりができる。幌高生では、不安があると言う意見もあるかもしれない。
・（アルバイト）中村牧場、ルオント、誠や、あじよし食堂は3年生のみ。アルバイトする子が少ない。１、２年生はアルバイトに興味が無いのか、している子がいない。
・幌高生はアルバイトを求めているが、求人が少なく３年生が優先になっている。
・昨年幌高3年生が雪かきアルバイトも提案している。農業などのアルバイトから在校時代に町民と関わりできれば町に残れる。（Tさんが良い例：あじよし食堂→JAきたそらちスタンド）
・幌高生も理由があればイベントに参加する。例えば、ゴミ拾いに幌高生誘って焼肉食べて、大人がしゃべれば打ち解ける。施設ではなく、人のつながりがあればよい。
・幌高生に対してどのようなイメージを持っているか不安がある。悪いのか良いのか。
・交流する場所に「行く理由」があれば、自然と集まれて交流が生まれる。理由が必要。「ふらっと」も集まれるような事、仕組みを町民に伝える必要がある。
・あの人が居るから行ってみようと思う。その「あの人」が必要。
・幌加内にお祭りはあるのか？
幌加内神社祭、厳寒祭り、朱鞠内湖水祭り～夏休み期間幌加内湖公園開き、そば祭り、産業祭、ワカサギ釣りワールドカップ～幌高長期休暇中政和、添牛内、朱鞠内母子里～神社祭
夕張高校は、盆踊りに参加し地域活性化を担っている。幌加内独自の踊り～朱鞠内音頭？
・デイサービスに幌高生がそばを打って提供してくれた時があった。現状コロナでできないが、高齢者も喜んでいた。高校生も忙しい。自分たち職員も高校生と交流が必要と感じている。
・せっかく幌加内に来たので、幌加内を知って卒業したい。

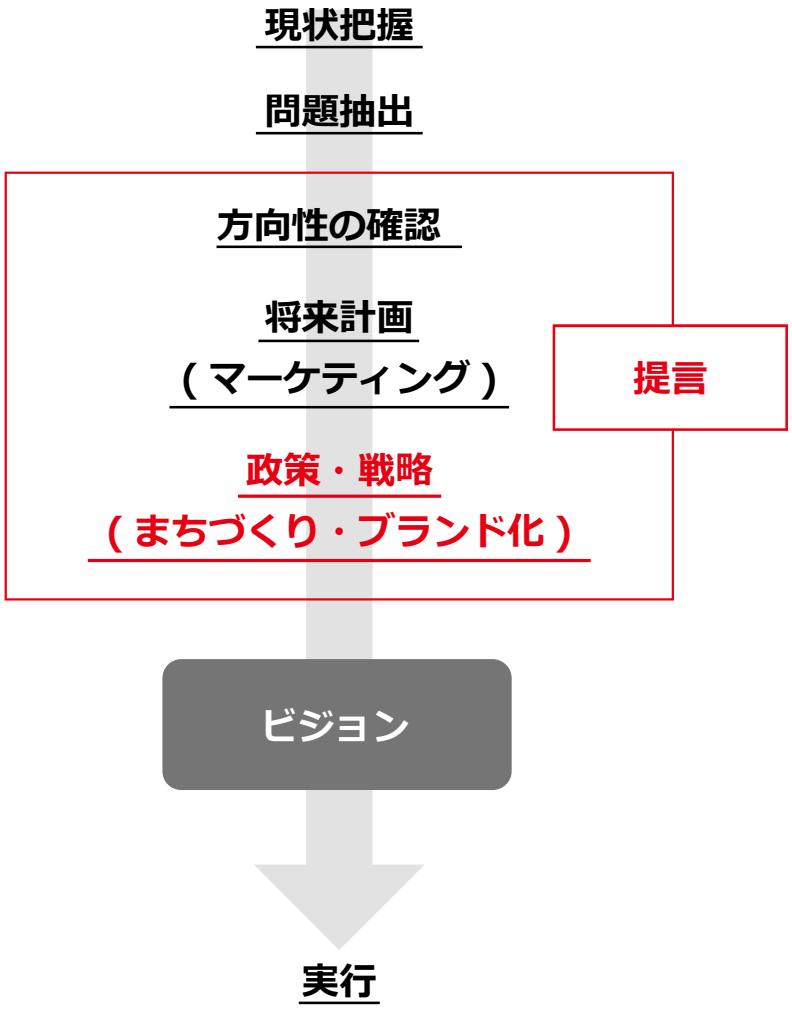
1-4　ビジョンの理念

委員間で共有した「1-3幌加内町の現状と課題」をビジョンへのWSの提言とするため下記ステップに基づき議論を進めました。

- **現状把握**　・・・「ビジョンへの提言」とすべき項目(現状)を把握する。
- **問題抽出**　・・・把握した現状に対して、現時点で懸念される問題点を抽出する。
- **方向性の確認**・・・抽出された問題点に対する提言の方向性を委員間で確認し共有する。
- **将来計画(マーケティング)**　・・・確認・共有化された方向性に基づく将来計画(マーケティング)を立案する。
- **政策・戦略(まちづくり・ブランド化)**　・・・将来計画を実現するために必要な政策や戦略を検討する。

本提言については、検討すべき項目(課題等)によっては、「政策・戦略」まで踏み込まず、「方向性の確認」及び「将来計画(マーケティング)」に留めたものもあります。

以降のステップについては、今後の更なる協議・検討を期待します。



1-5　ビジョンのコンセプト

ビジョンへのWSの提言をするに当たり、ビジョンのコンセプトは

・住みやすい町
・幌加内のブランド化

を柱として皆が良くなるまちづくりを進め、関係人口を増やし、人口減の抑制を目指すこととします。

【住みやすい町】

防災・子育て・高齢者・移動交通等の町全体の課題に町民が一体となって取り組む町を目指すことをコンセプトとします。

【幌加内のブランド化】

「幌加内」という町のブランド力を向上するために町の貴重な財産である「そば」と「朱鞠内湖」のブランド力をより向上させることをコンセプトとします。

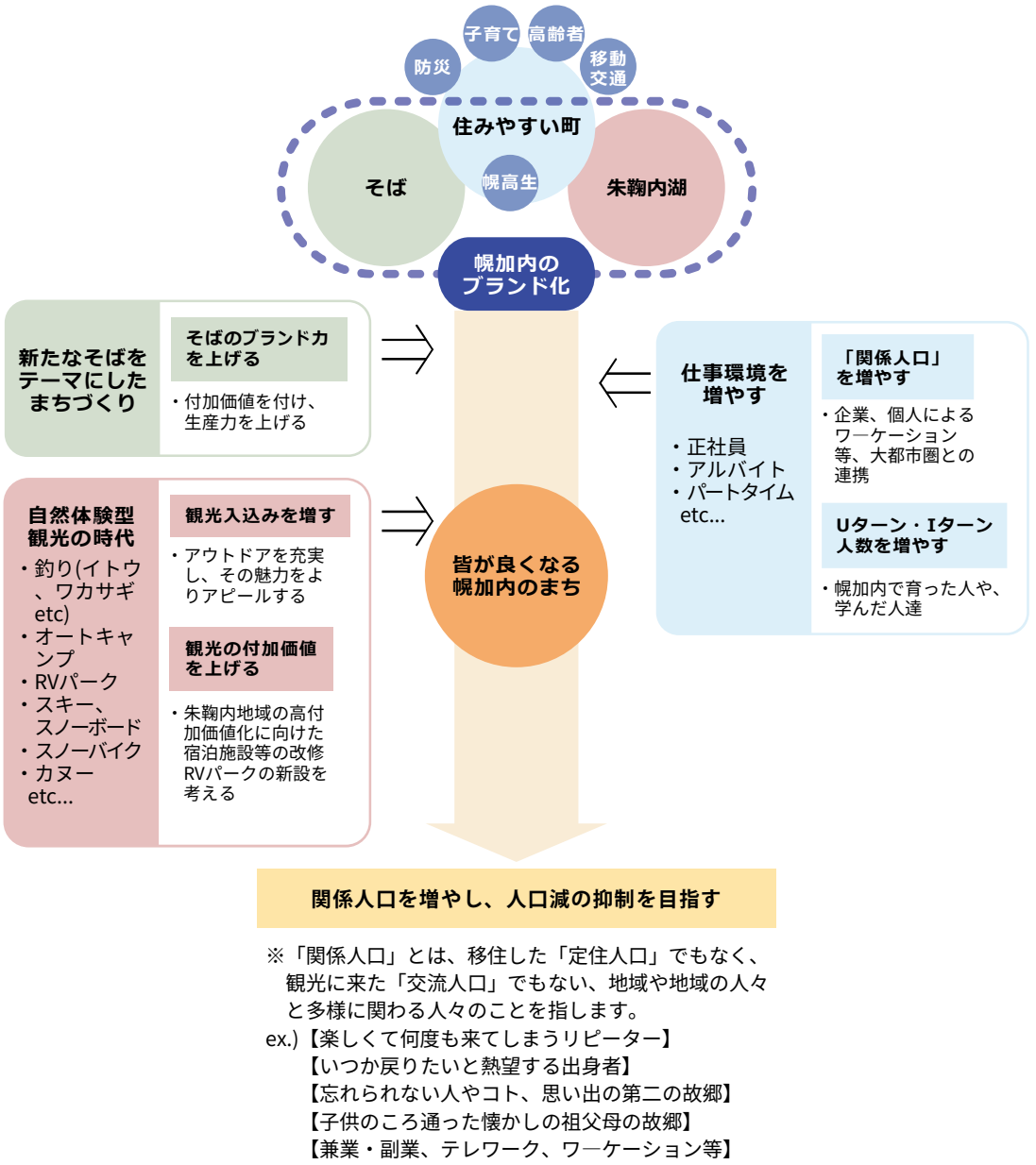
・新たなそばをテーマとしたまちづくり

付加価値を付けて生産力を向上することで今以上にそばのブランド力を上げることが重要と考えます。

・自然体験型観光の時代を捉えたまちづくり

朱鞠内湖を中心としたアウトドアアクティビティー(釣り、オートキャンプ、RVパーク、スキー、スノーボード、スノーバイク、カヌーetc.)を体験する観光の高付加価値化に向けて、宿泊施設等の改修やRVパークの新設を行い、その魅力をよりアピールすることで観光入込みの増加を目指すことが重要と考えます。

また【住みやすい町】【幌加内のブランド化】両方に関わり合いを持つ幌高生が、これらのまちづくりに積極的に参加できる環境や仕組みが必要です。



※「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。
ex.)【楽しくて何度も来てしまうリピーター】
【いつか戻りたいと熱望する出身者】
【忘れられない人やコト、思い出の第二の故郷】
【子供のころ通った懐かしの祖父母の故郷】
【兼業・副業、テレワーク、ワーケーション等】

第２章　提言Ⅰ「住みやすい町」への提言

2-1　現状の把握と問題の抽出

「住みやすい町」への提言に当たり、WS では下記の 9 つの現状に対して問題を抽出し、提言の検討を行いました。

①既存各公共施設・各跡地の利活用
②地域交流
③関係人口
④移動手段
⑤子育て
⑥高齢者
⑦防災
⑧幌加内高等学校
⑨買い物

この 9 つの現状に対して、現時点で懸念される問題を抽出しました。新たな施設建設については、有効に活用されていない既存施設が多く、それらの有効活用を優先し、不足するサービスや機能を補う最小限の建設をすべきと考えます。

①既存各公共施設・各跡地の利活用

抽出した問題-1：病院跡地の利活用
　点在する跡地の中でも、場所・広さ共に突出する病院跡地の利活用に対する検討
抽出した問題-2：市街地の印象
　町を縦断する主要道路である国道275号線に面する市街地の印象が薄く、素通りされてしまうことに対する方策の必要性
抽出した問題-3：交流プラザの有効活用
　国道275号線沿いの公共的施設として、2階交流室の有効活用

②地域交流

抽出した問題：交流の場
　現状、町内に全ての世代や町内外の人が、集えるような交流の場がないことに対する方策の必要性

③関係人口

抽出した問題：定住人口の減少
　将来に向けて減少する定住人口に対する方策の検討

④移動交通

抽出した問題：限定された移動交通手段
　いつでも誰でも移動できる交通手段の方策の必要性

⑤子育て

抽出した問題：安心・安全な遊びの場
　現状の学童施設が狭く人数制限を行う必要があることや、対象年齢以外の子供たちも含め、安心して子供を預けられる場所への方策の検討

⑥高齢者

抽出した問題：高齢者コミュニティセンターの老朽化への方策の検討

⑦防災

抽出した問題：1000年に一度クラスの水害への対応の検討

⑧幌加内高等学校

抽出した問題：幌高生と町民が関わる機会が少ないことへの方策の必要性

⑨買い物

抽出した問題-1：市街地の買い物事情への方策の検討
抽出した問題-2：北部地区の買い物事情の改善への方策の検討

9つの現状に対して抽出した問題への提言

①既存各公共施設・各跡地の利活用について

「抽出した問題-1：病院跡地の利活用」への提言

・利活用についてWSで検討した結果、病院跡地は将来の様々な計画を検討されることが想定されるため、WSとして現状のところ利活用の提言は保留

・将来計画の決定まで他に利活用案がない場合は、学童保育の子供が屋外で安全に遊べる場として、屋外施設の検討を要望

「抽出した問題-2：市街地の印象」への提言

国道275号線沿いの印象が薄く、素通りされてしまうことに対し、以下を提言します。

【ソフト面での提言】

・まちづくりを明確にするため市街地の利用目的に対する既存のゾーニングを踏まえて今後の利活用イメージを明確化
(詳細は2-2「住みやすい町」への9つの提言-2参照)

【ハード面での提言】

・国道275号線沿いに印象に残る街並みづくりの検討を要望

・町の観光資源等の案内看板の新設や再整備検討を要望
(詳細は2-2「住みやすい町」への9つの提言-3参照)

「抽出した問題-3：交流プラザの有効活用」への提言

交流プラザは国道275号線沿いの好立地にもかかわらず、商工会のものというイメージがついており、町内外の人に利活用されているとは言えない状況にあります。高齢者コミュニティセンターの施設老朽化に伴い、高齢者の活動場所を2階交流室へ移転することも検討しましたが、交流プラザの持つ本来の施設意図にそぐわないとの意見も見られました。従って本来のあるべき交流プラザの利活用を考えることとなりました。

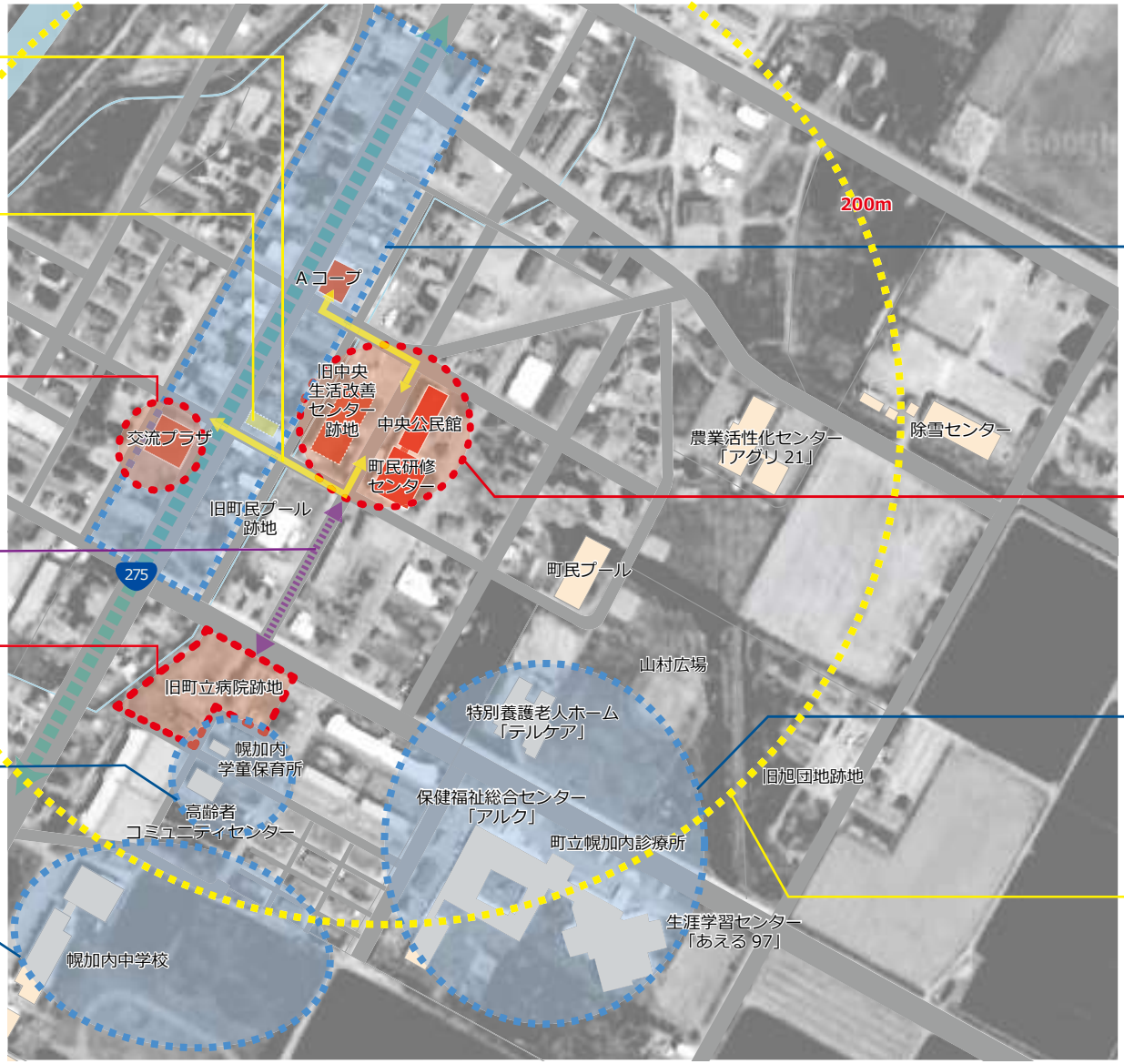
【ソフト面での提言】

・2階の交流室については、商工会関係に限らず幅広くサークル活動や講演会利用等、町内外の交流を目的とした利活用促進に繋がることの検討が必要

※①既存各公共施設・各跡地の利活用について、WS で議論を行う前に委員の皆さんが日ごろ抱いている、町内既存各公共施設・各跡地の印象と利活用方法について、アンケート調査を行いました。

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-2

既存の利活用目的別の市街地ゾーニングを踏まえ、病院跡地・行政ゾーン・交流ゾーン・商業ゾーン等の位置づけ、行政ゾーンと交流ゾーンを繋ぐ通りの整備、案内サインの設置の市街地利活用イメージ(案)です。



行政ゾーンと交流ゾーンを繋ぐ通り
- 通りの整備
- 歩行者専用なども検討

案内サインの設置
- 幌加内の中心をアピールするランドマーク
- 行政ゾーンへの誘導

交流ゾーン
- 交流プラザ
- バスターミナル
(・コンビニ等)

病院跡地の将来活用を踏まえた連絡導線

病院跡地の将来活用
- 将来の行政活用のために、更地としておく

子供及び高齢者ゾーン
- 幌加内学童保育所
- 高齢者コミュニティセンター

教育ゾーン
- 幌加内中学校
- 幌加内高等学校

既存ゾーニング
今後の利活用イメージ
コンパクトシティエリア (200m 圏内)

商業ゾーン
- 住民生活や来訪者にとっての、買い物等の利便性
- 印象に残る街並みづくりの検討

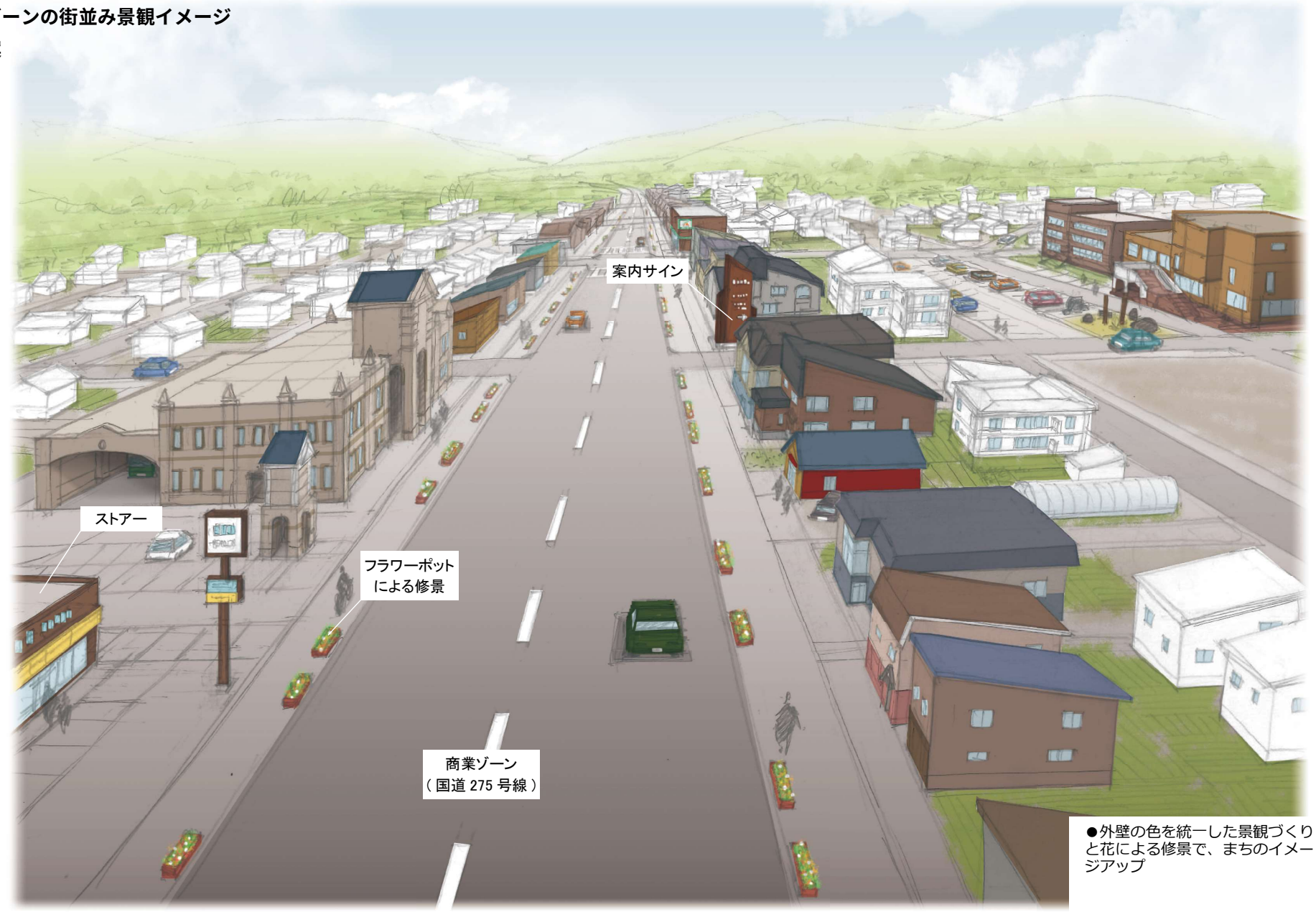
行政ゾーン
- 旧中央生活改善センター跡地を、イベント広場として再生（そば祭りなど）
- 災害時の防災拠点機能の拡充
- コミュニティーの場の創出
- 町民の利便性の向上
(信用金庫、バス停等)

医療・福祉・文化ゾーン
- 保健福祉総合センター「アルク」
- 町立幌加内診療所
- 生涯学習センター「あえる97」
- 特別養護老人ホーム「テルケア」

コンパクトシティエリア (200m 圏内)

●商業ゾーンの街並み景観イメージ

※参考案



●印象に残る街並み

※参考事例

定山渓観光協会

2005 年

使われなくなった札幌信用金庫定山渓支店の建物を活用し、長年の夢であった定山渓の顔である新たな観光協会として生まれ変わった

■Plan

■Before

■After

歓迎看板

2016 年

古くなった定山渓温泉街の入口にある歓迎看板と手湯を札幌市の補助のもと景観を考慮した新たなモニュメントとして定山渓観光協会が再生

■Plan

■Before

■After

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-5

●町内既存施設マップ

※参考資料：参考として、町内の既存施設の位置と概要を示す

①百年記念公園

②ほろたちスキー場

③農業活性化センター「アグリ 21」

④交流プラザ

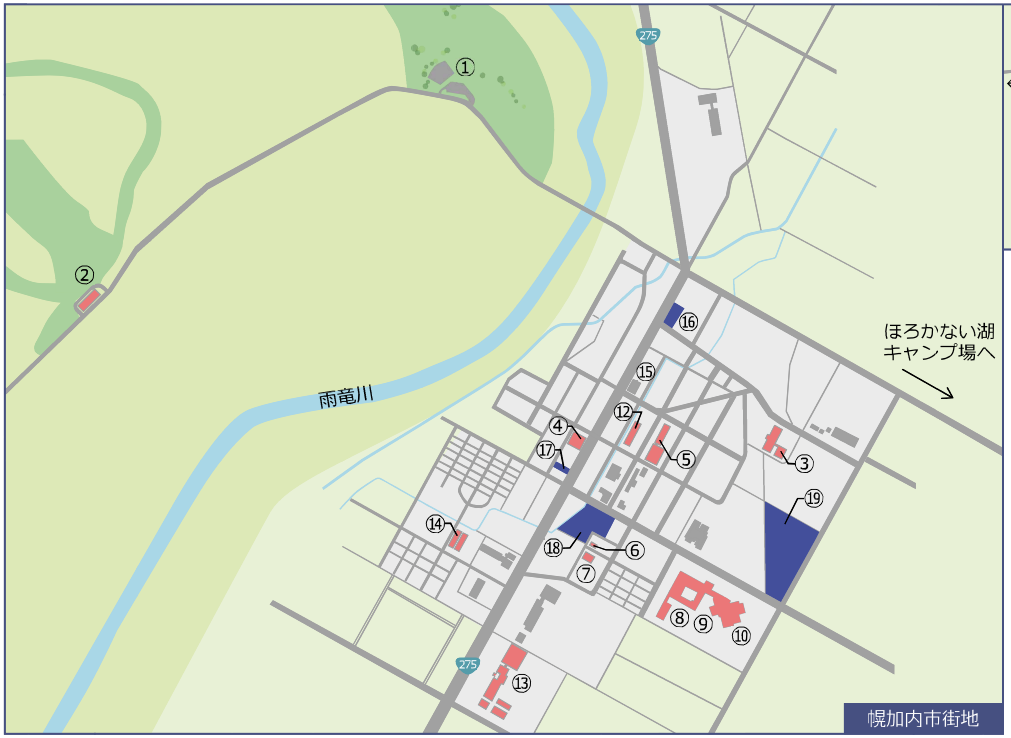
⑤中央公民館・町役場

⑥幌加内学童保育所

⑦高齢者コミュニティセンター

⑲旧旭団地跡地

⑱旧町立病院跡地



⑰商業候補地 B

⑯商業候補地 A

⑧保健福祉総合センター「アルク」

⑮A コープ

⑭農産加工センター

⑬幌加内高等学校

⑫旧中央生活改善センター跡地

⑪ほろかない湖キャンプ場

⑩生涯学習センター「あえる 97」

⑨町立幌加内診療所

②地域交流について

「抽出した問題：交流の場」への提言

【ソフト面での提言】

・地域の人が楽しめるイベント、例えば、開基120周年記念町民焼肉パーティーや昔の町民運動会のようなイベントを開催しつつ、町外の人とも交流ができるようなものの企画を要望

・交流できるイベントの企画について町内外から自発的なイベント企画が持ち込まれるようなまちづくりを目指す

【ハード面での提言】

・日常的にコミュニティが活性化する交流の場として、カフェ等の気軽に立ち寄り情報交換できる場を既存施設利用もしくは、新築を含め検討を要望

【運営面での提言】

・交流の場としてのイベントやカフェ等の施設の運営者を、町外からの公募を含めて検討を要望

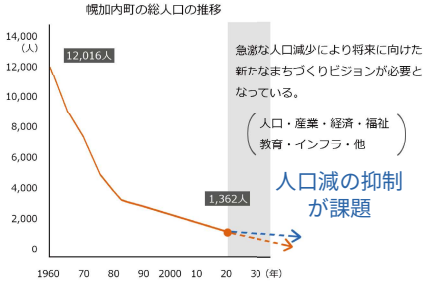
・幌高生の社会体験学習の場として「高校生カフェ」などのアイディアも引き続き検討を要望

●カフェイメージ写真

③関係人口について

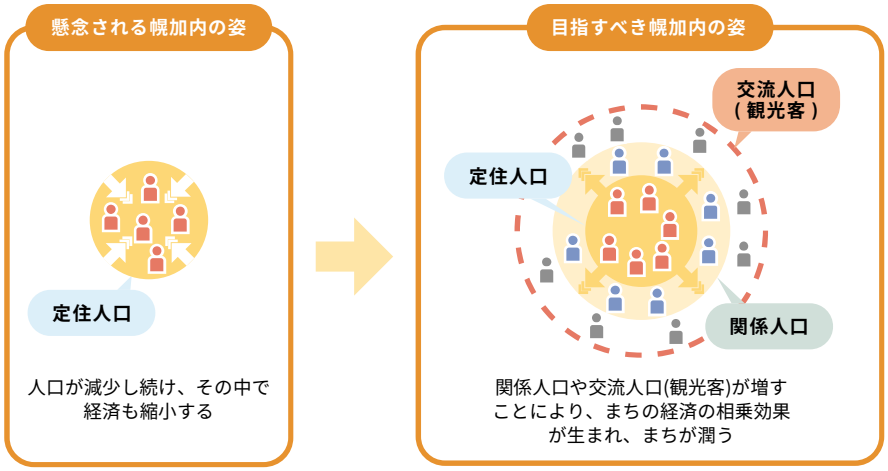
「抽出した問題：定住人口の減少」への提言

将来に向けて、減少する定住人口に対する対策として以下を提言します。



【ソフト面での提言】

・定住人口の減少を交流人口(観光客)と関係人口で補完する



・移住者サポートの仕組みとして、専門職員の配置や移住者によるサポート等を引き続き検討することと併せて、移住支援人材の確保についても検討を要望

【ハード面での提言】

・移住希望者の住居として、町内の空き家や既存公的住宅の利活用促進を要望

・関係人口を増やすための利便施設(コンビニ等)の検討を要望

【運営面での提言】

・地域おこし協力隊、移住コーディネーター、役場を含めた包括的な支援を要望

④移動交通について

「抽出した問題：限定された移動交通手段」への提言

【ソフト面での提言】

・ほろみん号とジェイ・アールバスが共存できる体制を希望

・ボランティアによる移動サービスの検討を要望

・学生等のスキー場への移動手段の早期整備を要望

【ハード面での提言】

・ジェイ・アールバスとほろみん号の乗り継ぎの改善を要望
ex.)現在の中央公民館前にバス停を設置する等

・学生等のスキー場への移動の為のバス停(集合場所)の早期設置を希望

⑤子育てについて

「抽出した問題：安心・安全な遊びの場」への提言

【ソフト面での提言】

・子育て世代の相談先の充実を要望

・学童を見守る人材の検討を要望

【ハード面での提言】

・当面は既存施設を利用で可

・将来的には、単独施設として新築の検討を要望
場所は①「アグリ21」、②保育園、③既存学童施設の周辺とし、安全な遊び場の整備も必要
(2-2「住みやすい町」への9つの提言-8参照)

・「アグリ21」を学童や子供の遊び場として、引き続き開放を要望

⑥高齢者について

「抽出した問題：高齢者コミュニティセンターの老朽化」への提言

【ソフト面での提言】

・高齢者コミュニティセンターへのソフト面での提言は、現状の利用方法で特に要望はありません。将来的には、高齢者と子供が集える仕組みも検討

【ハード面での提言】

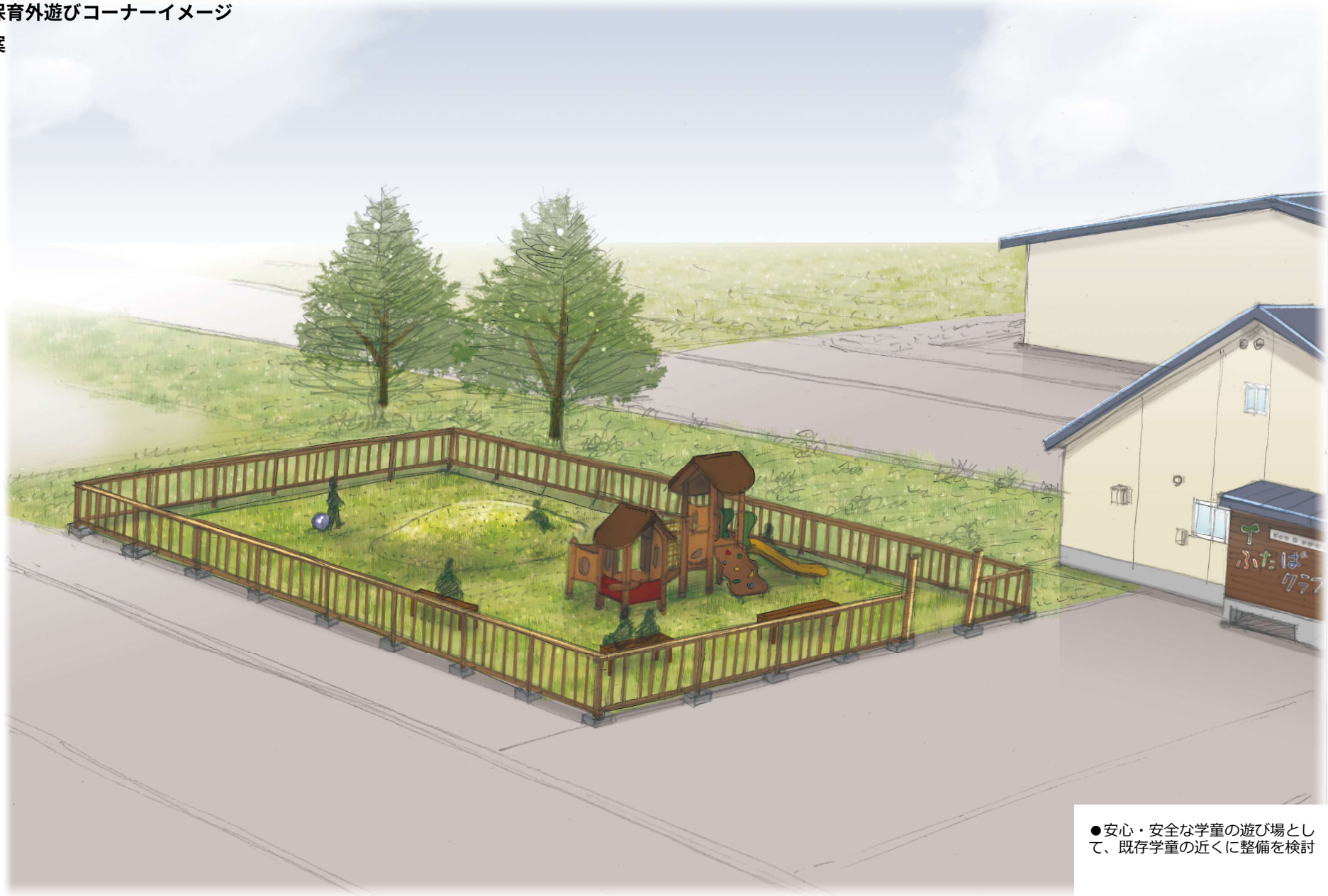
・交流プラザの2階等、既存施設内での有効活用を検討したが、適切な施設がないと判断されたため提言は控えます。将来利用者数を念頭に高齢者の要望を確認のうえ、駐車場のある新築の要否を含めて検討

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-8

●学童施設再整備マップ

●学童保育外遊びコーナーイメージ

※参考案



●安心・安全な学童の遊び場として、既存学童の近くに整備を検討

⑦防災について

「抽出した問題：1000年に一度クラスの水害への対応」への提言

地球温暖化等の影響により、幌加内においても1000年に一度クラスの水害(洪水)が、いつ発生しても不思議ではないとの認識をWSとして共有しその対応を提言します。

※提言に当たり、防災拠点の整備の方向性は右図「防災拠点の考え方」による。

【ソフト面での提言】

・防災拠点整備に向けた下記を含む防災計画の検討を要望

→・避難人数及び分散型避難を想定した各避難施設の収容人数等の設定と、ハザードマップへの追記

・防災拠点として必要な機能、規模の設定

・防災拠点整備のための建設予算及び時期

・公民館を解体した場合の公民館の機能を補完

・災害時の職員の確保

・学校避難所の充実

※詳細は、2-2「住みやすい町」への9つの提言-11参照

【ハード面での提言】

・洪水時の防災拠点の整備として、WSでは以下の(仮称)防災・コミュニティセンター4案を検討しC案を提言します。

→・A案：既存公民館を必要最低限の改修をする案

・B-1案：災害時のバックアップ施設を公民館前に増築する案

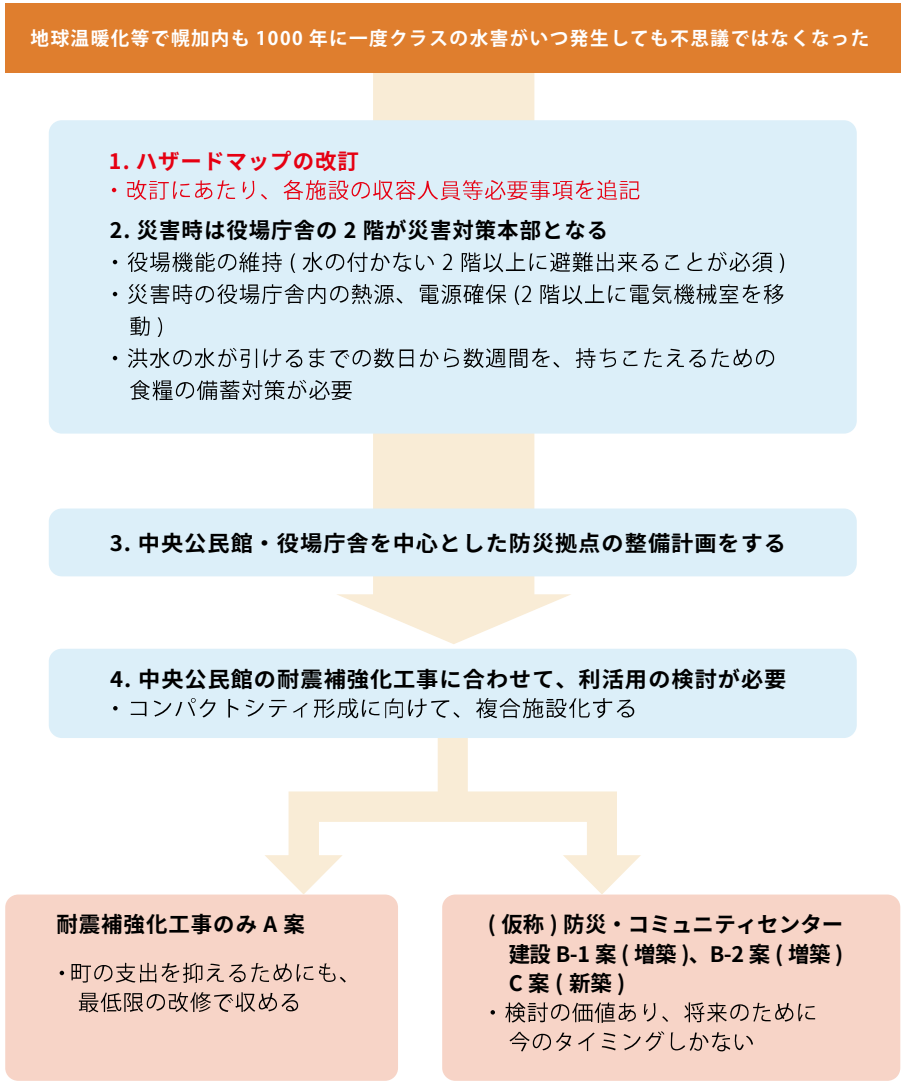
・B-2案：災害時のバックアップ施設を役場庁舎前に増築する案

・C案：既存公民館を解体し、バックアップ施設を新築する案

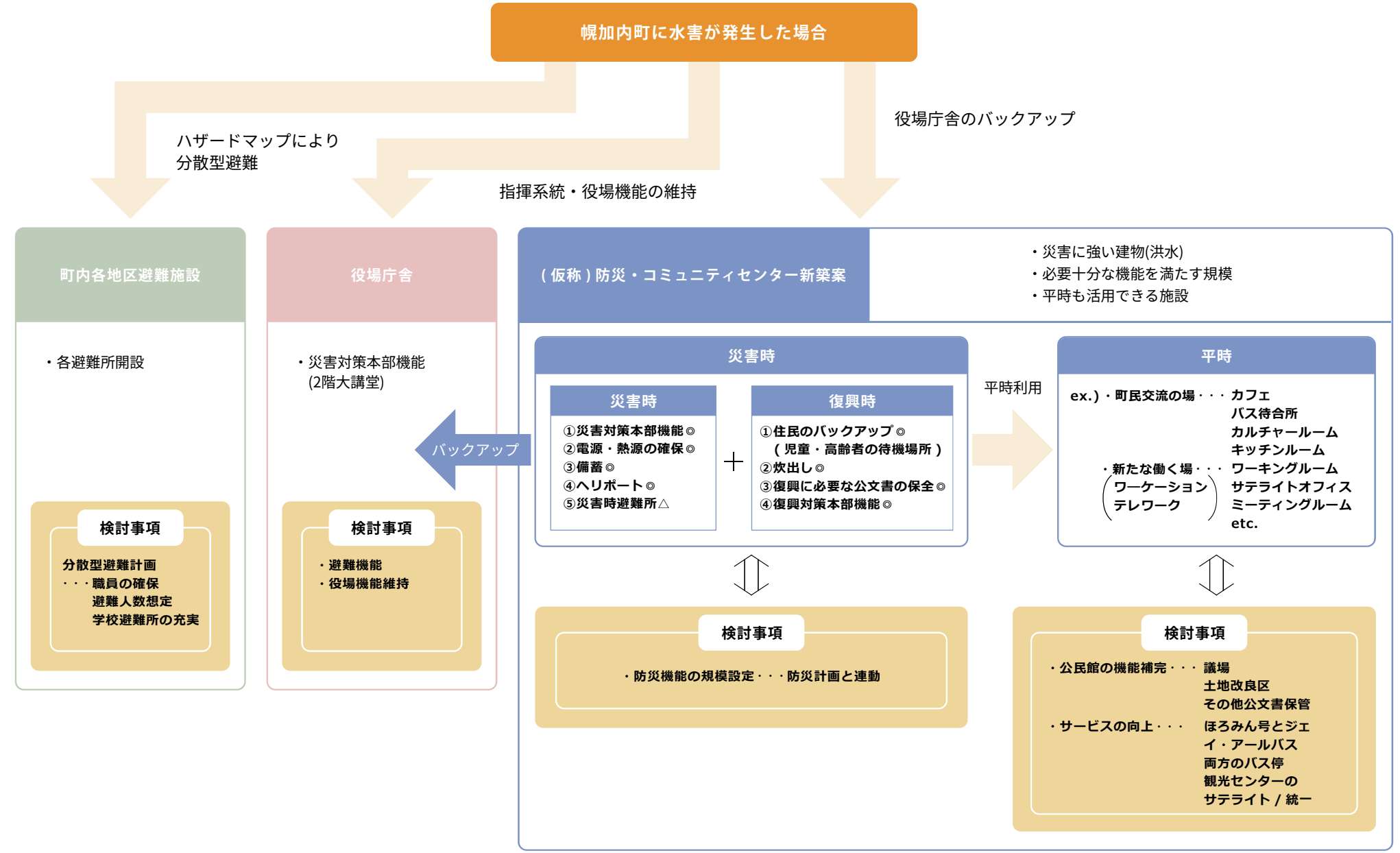
(規模・機能等は、暫定想定)

※各案の詳細は2-2「住みやすい町」への9つの提言-12参照

●防災拠点の考え方

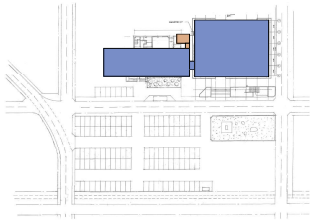
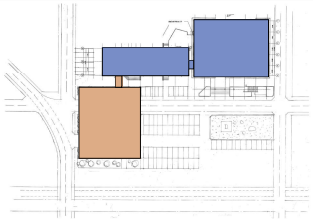
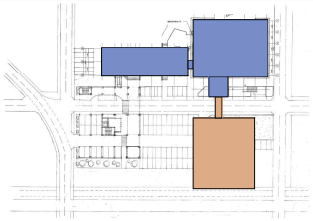
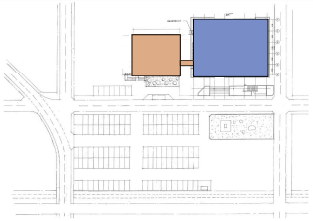


●(仮称) 防災・コミュニティセンター建設 C 案 (新築) の位置づけ



2-2　「住みやすい町」への9つの提言-12

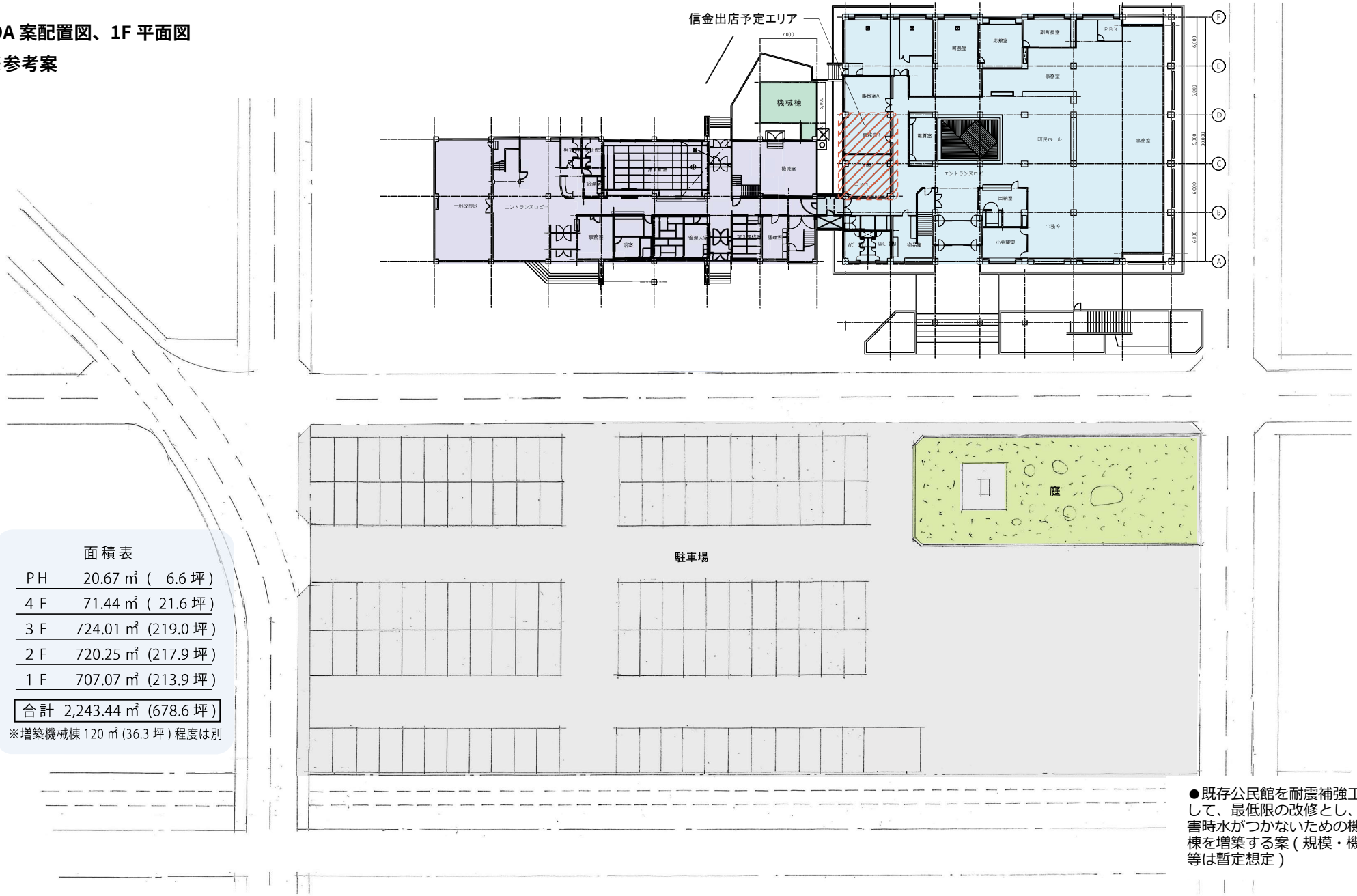
●防災拠点の検討

検討案概要	A案 (既存公民館を耐震補強工事して、最低限の改修とし、水害時水がつかないための機械棟を増築する案)	B-1案 (既存公民館を耐震補強工事して残し、公民館と役場庁舎のバックアップ施設を増築する案)	B-2案 (B-1案増築部分を役場庁舎側に建てた案)	C案 (既存公民館を解体し、跡地に公民館に変わる役場庁舎のバックアップ施設を新築する案)
ゾーニング・プラン ■・・・既存施設 ■・・・増築・新築部分				
施設規模	(現中央公民館)2,243.44㎡+(機械棟増築)120㎡程度	(増築棟)3,790㎡	(増築棟)3,790㎡	(新築棟)2,220.75㎡
特徴	・必要最低限の改修と、災害時の電源確保のための機械棟を増設するのみで、一番工事費を抑えられる。	・場合によっては、旧中央生活改善センターの解体費とセットで増築棟の工事費も補助を受けられるかもしれない。 ・増築棟は、災害時の備蓄や倉庫、設備機器の確保に役割を果たす。 ・平時はコミュニティ系の施設やワークスペースとして利用し、災害時は避難所として利用できる。 ・同時に役場庁舎の設備機器更新工事も行える。 ・EVを設置できるので、高齢者の避難受け入れが容易になる。 ・屋上にヘリポートを設置できる。(規模は要検討)	・B-1案と同様。 ・役場から最短で行き来できる。 ・B-1案と比べて公民館解体、役場庁舎建替えなどの将来の敷地利用が計画しやすい。	・B-1案と同様。 ・将来、役場庁舎を改築するときの敷地を確保しやすい。
課題や制約	・設備改修が無しなので、クーラーやEVの設置はなし。(クーラー設置であれば、キュービクルの増強が必要。EV増築は法規的に要検討。ハードルは高い。) ・耐震補強工事後の２０年の内に設備機器の更新他、建物の改修工事をする必要がある。 ・既存建物にヘリポートを設置するのは、構造耐力上不可能。 ・利活用の際は、各室にある荷物を明け渡すためのスペースが必要となる。 ・災害時備蓄のスペースが足りていない。	・既存中央公民館をそのまま残すことになるので、維持管理費が発生する。 ・中央公民館解体と同時に、役場庁舎改築を考えないといけない。	・既存中央公民館をそのまま残すことになるので、維持管理費が発生する。 ・渡り廊下の除雪の問題がある。	・財源の確保。 ・議会、改良区の仮設場が必要。 ・施設規模は、避難所として十分な広さを有しているとは言えない。
防災	・町民は町内の各避難所へ分散避難。役場庁舎は災害対策本部となる。	・A案と同様。 ・市街地中心部の高齢者は、選択肢としてEVがある増築棟に避難できる。 ・ヘリポート設置で、物資の受け取りや急病者の搬送に利用できる。	・B-1案と同様。	・B-1案と同様。
施設更新	・必要と思われる改修工事 防水工事(中央公民館R４年度防水塗装工事、役場庁舎R6年度防水塗装工事実施) 外壁塗替え工事 内装材改修工事 配管取替(給排水管、ガス管、灯油管) 照明器具取替 配電盤・分電盤取替 etc...	・竣工後30年に一度大規模改修、60年で建替え。 ※大規模改修：一部分だけでなく、建物内の多くの場所を対象として行う改修のこと。 ・増築の際は、中央公民館と役場庁舎も併せて、各室冷暖房システムを導入する。(各室エアコン、サブでFFストーブ設置)	・B-1案と同様。	・竣工後30年に一度大規模改修、60年で建替え。 ※大規模改修：一部分だけでなく、建物内の多くの場所を対象として行う改修のこと。 ・建替えの際は、役場庁舎も併せて、各室冷暖房システムを導入する。(各室エアコン、サブでFFストーブ設置)
備考	・耐震改修後、20年程度施設を使用しなければならない。			

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-13

●A 案配置図、1F 平面図

※参考案



面積表

PH	20.67 ㎡ (　6.6 坪)
4 F	71.44 ㎡ (　21.6 坪)
3 F	724.01 ㎡ (219.0 坪)
2 F	720.25 ㎡ (217.9 坪)
1 F	707.07 ㎡ (213.9 坪)
合計	2,243.44 ㎡ (678.6 坪)

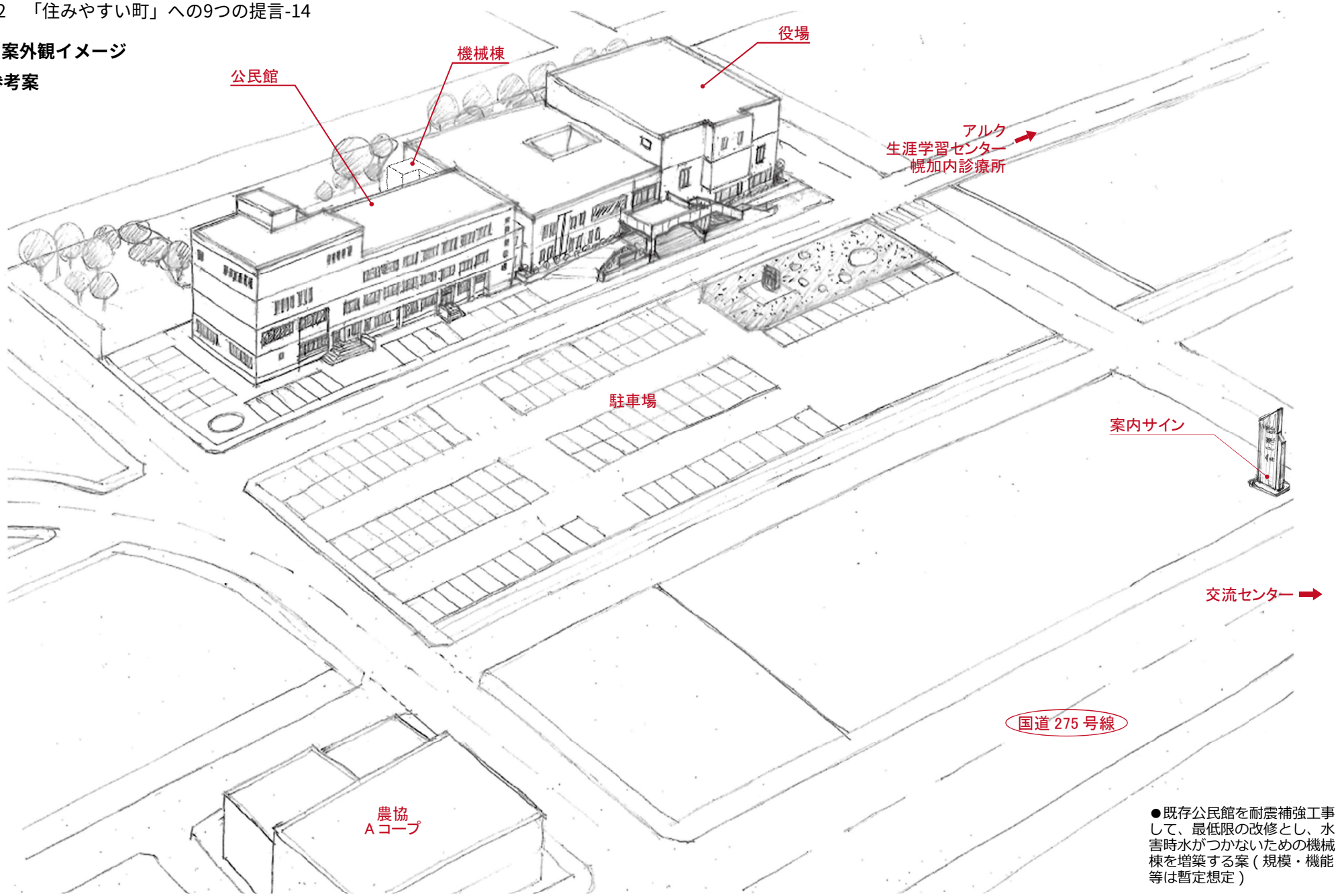
※増築機械棟 120 ㎡ (36.3 坪) 程度は別

●既存公民館を耐震補強工事して、最低限の改修とし、水害時水がつかないための機械棟を増築する案 (規模・機能等は暫定想定)

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-14

●A 案外観イメージ

※参考案

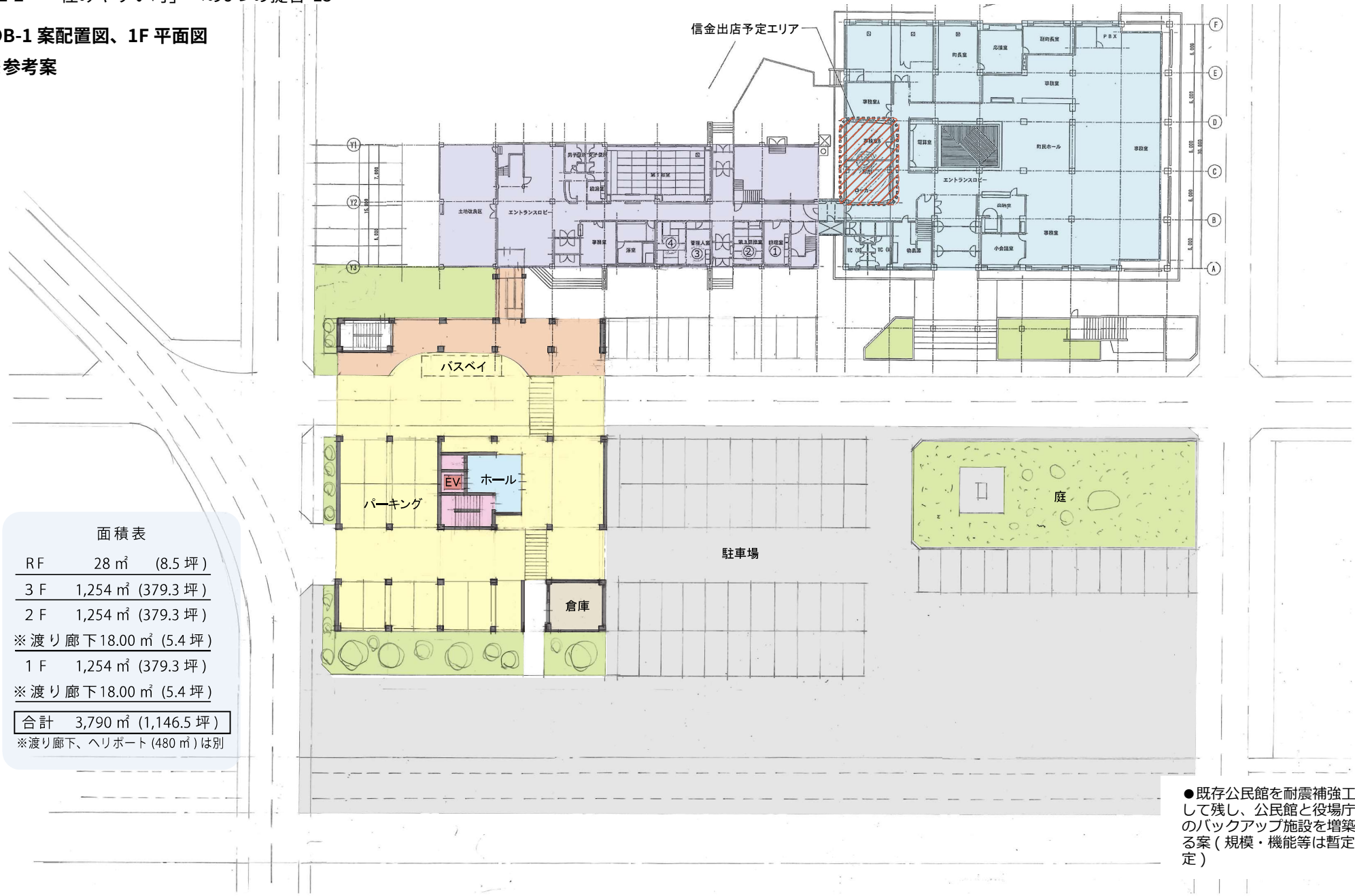


●既存公民館を耐震補強工事して、最低限の改修とし、水害時水がつかないための機械棟を増築する案 (規模・機能等は暫定想定)

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-15

●B-1 案配置図、1F 平面図

※参考案



面積表

RF	28 ㎡	(8.5 坪)
3 F	1,254 ㎡	(379.3 坪)
2 F	1,254 ㎡	(379.3 坪)
※渡り廊下	18.00 ㎡	(5.4 坪)
1 F	1,254 ㎡	(379.3 坪)
※渡り廊下	18.00 ㎡	(5.4 坪)
合計	3,790 ㎡	(1,146.5 坪)

※渡り廊下、ヘリポート (480 ㎡) は別

●既存公民館を耐震補強工事して残し、公民館と役場庁舎のバックアップ施設を増築する案 (規模・機能等は暫定想定)

●B-1 案 2F 平面図

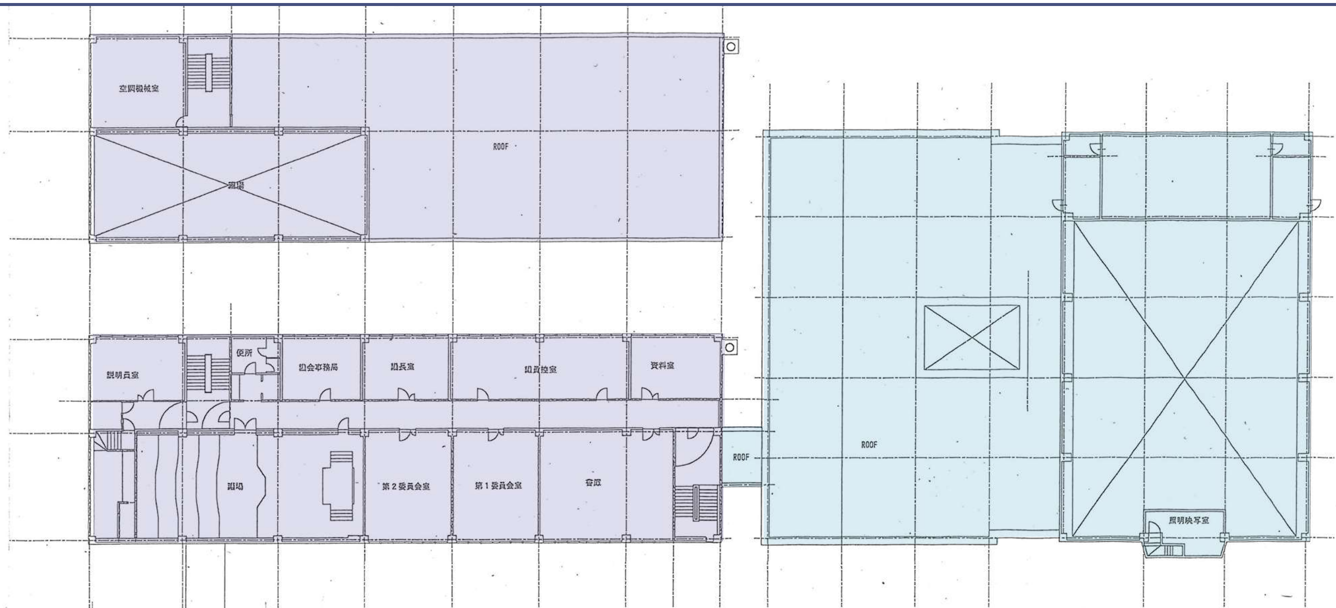
※参考案

●既存公民館を耐震補強工事して残し、公民館と役場庁舎のバックアップ施設を増築する案（規模・機能等は暫定想定）

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-17

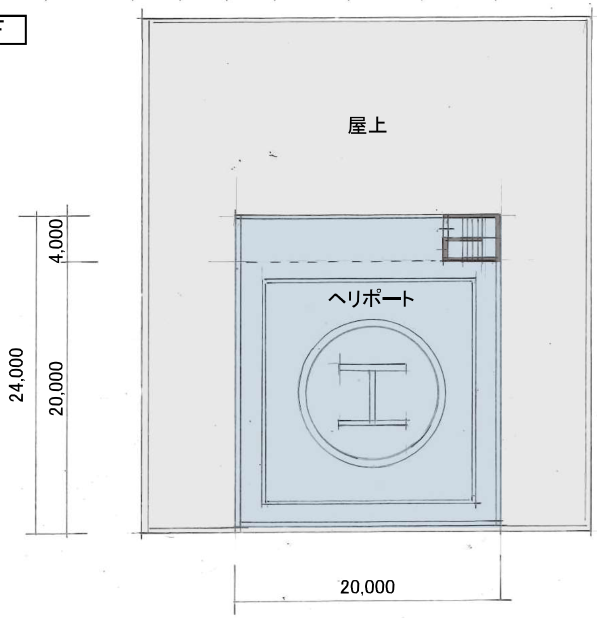
●B-1 案 3F、RF 平面図

※参考案



３Ｆ

ＲＦ

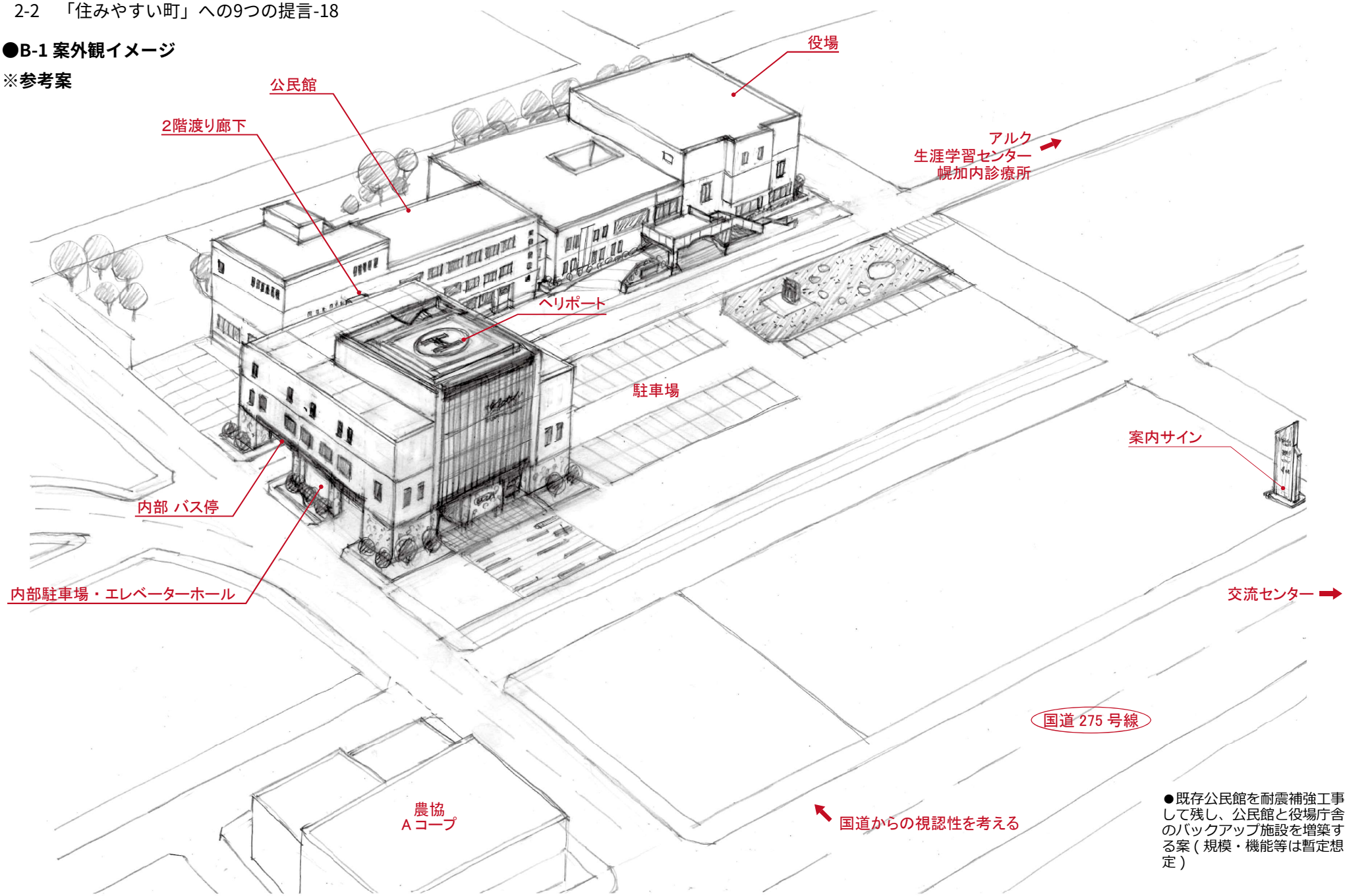


●既存公民館を耐震補強工事して残し、公民館と役場庁舎のバックアップ施設を増築する案（規模・機能等は暫定想定）

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-18

●B-1 案外観イメージ

※参考案

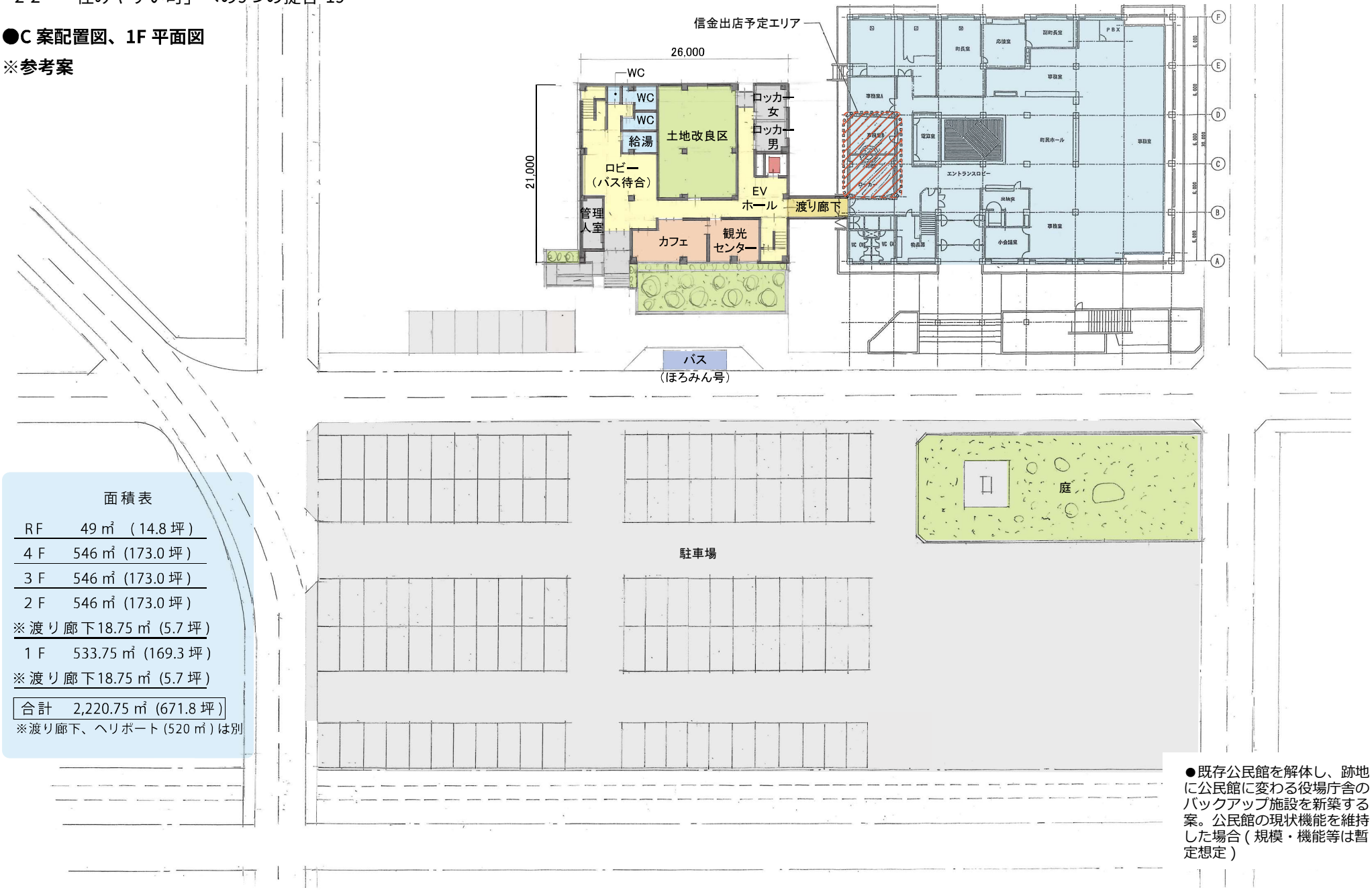


●既存公民館を耐震補強工事して残し、公民館と役場庁舎のバックアップ施設を増築する案 (規模・機能等は暫定想定)

2-2　「住みやすい町」への9つの提言-19

●C 案配置図、1F 平面図

※参考案



面積表

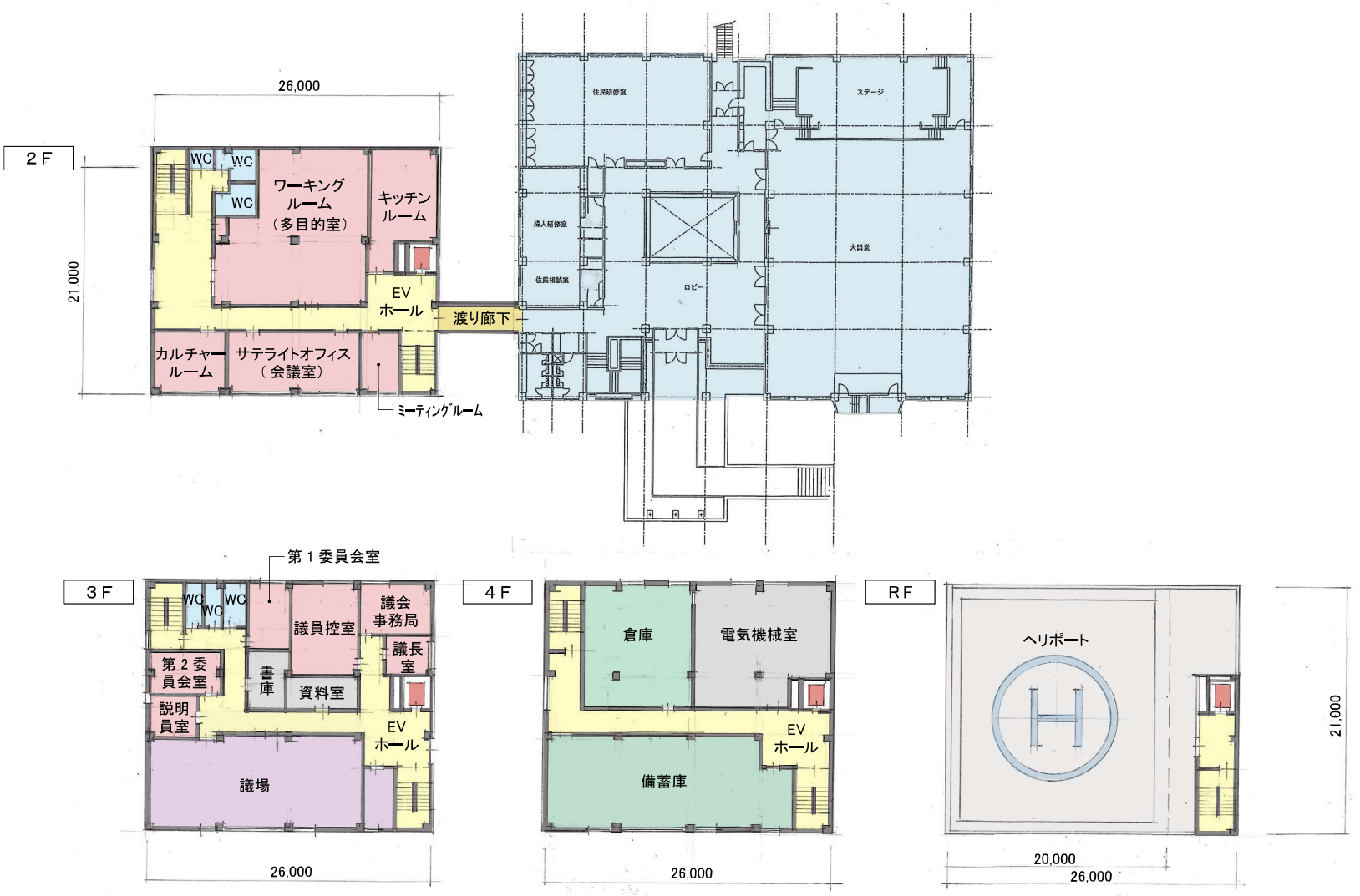
RF	49 ㎡	(14.8 坪)
4 F	546 ㎡	(173.0 坪)
3 F	546 ㎡	(173.0 坪)
2 F	546 ㎡	(173.0 坪)
※渡り廊下	18.75 ㎡	(5.7 坪)
1 F	533.75 ㎡	(169.3 坪)
※渡り廊下	18.75 ㎡	(5.7 坪)
合計	2,220.75 ㎡	(671.8 坪)

※渡り廊下、ヘリポート (520 ㎡) は別

●既存公民館を解体し、跡地に公民館に変わる役場庁舎のバックアップ施設を新築する案。公民館の現状機能を維持した場合 (規模・機能等は暫定想定)

●C 案 2F、3F、4F、RF 平面図

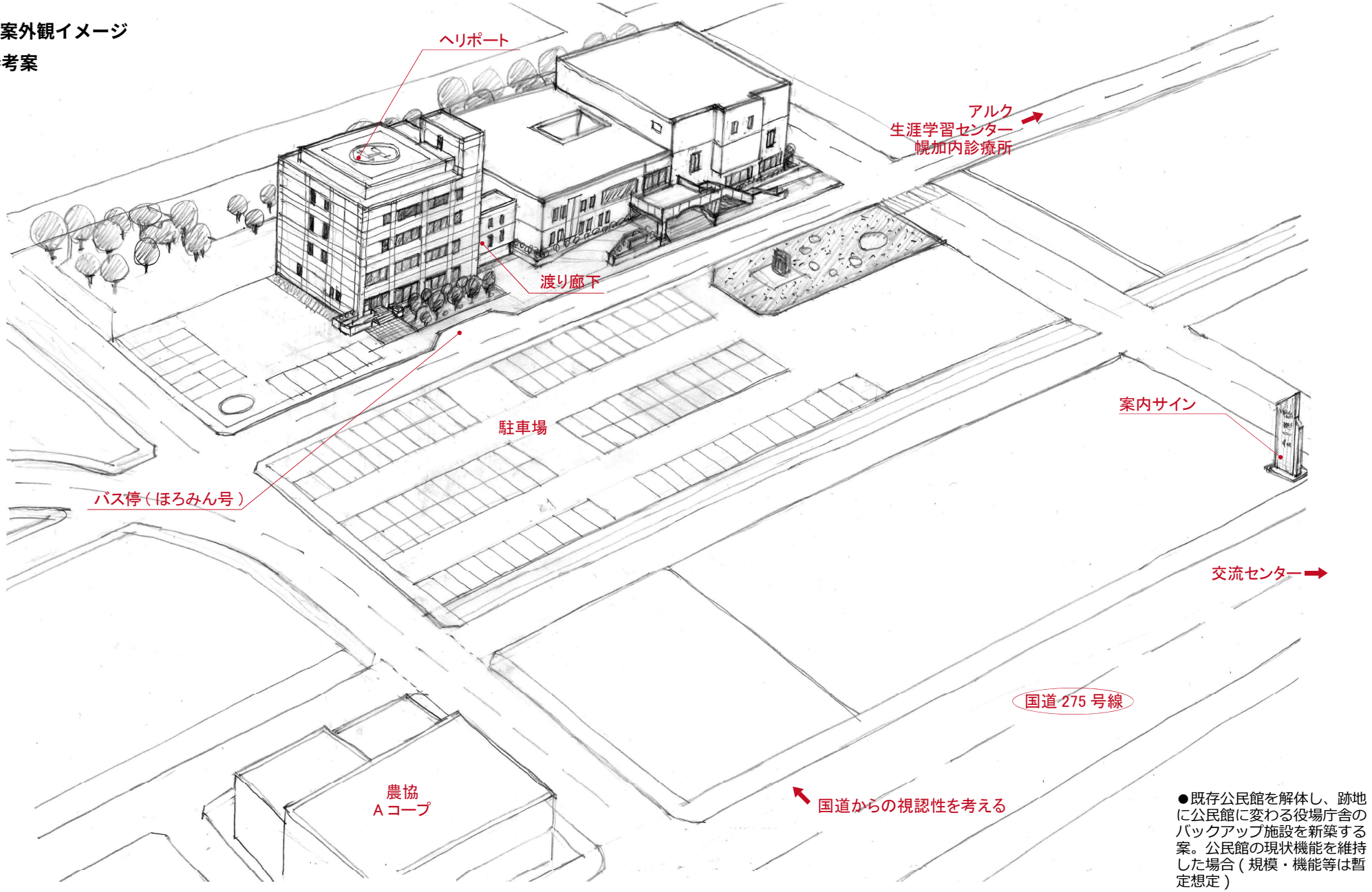
※参考案



●既存公民館を解体し、跡地に公民館に変わる役場庁舎のバックアップ施設を新築する案。公民館の現状機能を維持した場合（規模・機能等は暫定想定）

●C 案外観イメージ

※参考案



●既存公民館を解体し、跡地に公民館に変わる役場庁舎のバックアップ施設を新築する案。公民館の現状機能を維持した場合（規模・機能等は暫定想定）

⑧幌加内高等学校について

「抽出した問題：幌高生と町民が関わる機会が少ない」ことへの提言

【ソフト面での提言】

第1章1-5ビジョンのコンセプトに記した通り、まちづくりに幌高生が積極的に参加するため、下記の仕組みや環境が必要

・幌高生が町内で就職できるように支援する仕組みづくり
・幌高生と町民が交流できる環境づくり
(祭り、イベント、就労体験、高齢者との交流、アートフェスetc.)
・幌高生の社会勉強の場、アルバイト先の検討(コンビニetc.)

【ハード面での提言】

・高校そば道場の改修等

⑨買い物について

「抽出した問題-1：市街地の買い物事情」への提言

【ソフト面での提言】

・コンビニ誘致については、幌高生から強いニーズがあることから引き続き町民内での検討が必要
・併せて、Aコープにコンビニ機能を備えることの検討を要望
(営業時間、品揃え、支払い、ＡＴＭ等)

【ハード面での提言】

・コンビニを誘致する場合の建設地の検討を要望

「抽出した問題-2：北部地区の買い物事情の改善」への提言

【ソフト面での提言】

・北部地区への移動販売の充実を要望
・士別方面への買い物の利便性を踏まえ、地域公共交通路線充実を要望

第３章　提言Ⅱ「そばのブランド化」への提言

「そばのブランド化」への提言に当たり、WS では下記の現状に対して問題を抽出し、提言の検討を行いました。

①ブランド力
②そば道場
③生産力

この 3 つの現状に対して、現時点で懸念される問題を抽出しました。

①ブランド力

抽出した問題：幌加内そばのブランド力の更なる向上

幌加内そばの知名度を今以上にアップして全国的なブランドとしてより定着させる方策

提言

【ソフト面での提言】

・幅広い年代への幌加内そばブランドの定着を目指して、SNS での発信強化など、幌高生のアイディアや行動が活かせる仕組みづくりを要望
・そば畑の景観を観光資源としてよりアピールし、観光客を増やすため、PR方法の検討を要望

【ハード面での提言】

・そばの景観スポット等の整備、案内サインの整備

②そば道場

抽出した問題：そば道場の地元後継者不足と運営方法

提言

【ソフト面での提言】

・関係者間での協議を行い、諸問題に関する対策の検討を要望
・必要に応じて、そば生産者支援の検討を要望

【ハード面での提言】

・新そば道場の建設は、上記ソフト面が整った時に判断する必要がある
・新そば道場は、高校そば道場とは別に設置を検討することを要望

③生産力

抽出した問題：生産力の更なる向上

提言

【ソフト面での提言】

・加工麺部門の拡大や町内での製麺請負による、生産から加工までの町内一貫体制の検討を要望

【ハード面での提言】

ソフト面の検討に応じた下記の判断が必要

・農産加工センターの増改築、新築の判断
・老朽化した機械の入替え
・そば道場併設

第４章　提言Ⅲ「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への提言

4-1　現状の把握と問題の抽出

「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への提言に当たり、WS では下記の現状に対して問題抽出し、提言の検討を行いました。

①観光のパワーアップ
②朱鞠内湖畔キャンプ場
③レークハウスしゅまりない
④ふれあいの家「まどか」
⑤母子里クリスタルパーク
⑥朱鞠内コミュニティ公園
⑦せいわ温泉「ルオント」

この 7 つの現状に対して、現時点で懸念される問題を抽出しました。

①観光のパワーアップ

抽出した問題：朱鞠内湖を主とした観光のパワーアップ

朱鞠内湖周辺に点在する観光資源を地域一帯で連動させて、幌加内観光のパワーアップを図り、収益を繋げる。

②朱鞠内湖畔キャンプ場
③レークハウスしゅまりない
④ふれあいの家「まどか」
⑤母子里クリスタルパーク
⑥朱鞠内コミュニティ公園
⑦せいわ温泉「ルオント」

抽出した問題-1：観光付加価値の向上(②～⑦)
抽出した問題-2：観光入込みを増やす(④⑤⑥⑦)

●朱鞠内湖

7つの現状に対して抽出した問題への提言

①観光のパワーアップ

「抽出した問題：朱鞠内湖を主とした観光のパワーアップ」への提言

幌加内には朱鞠内湖を主として、地域一帯に観光資源となりうるスポットが点在しています。これらを連動させて各々に新たな付加価値を創出することにより、朱鞠内湖のブランド力を更に高め、幌加内の観光収益の向上へ繋げることを提言します。

朱鞠内湖周辺の観光資源の新たな高付加価値を創出し、収益を生み出すためには

・自然環境に配慮した計画とする
・「レークハウス」「まどか」の改修「ゲストハウス」の新設による観光地のホテルとしてのポテンシャル向上による売上アップ
・オートキャンプやRVパーク等の新たな収益源の創出

以上の3つが重要となります。

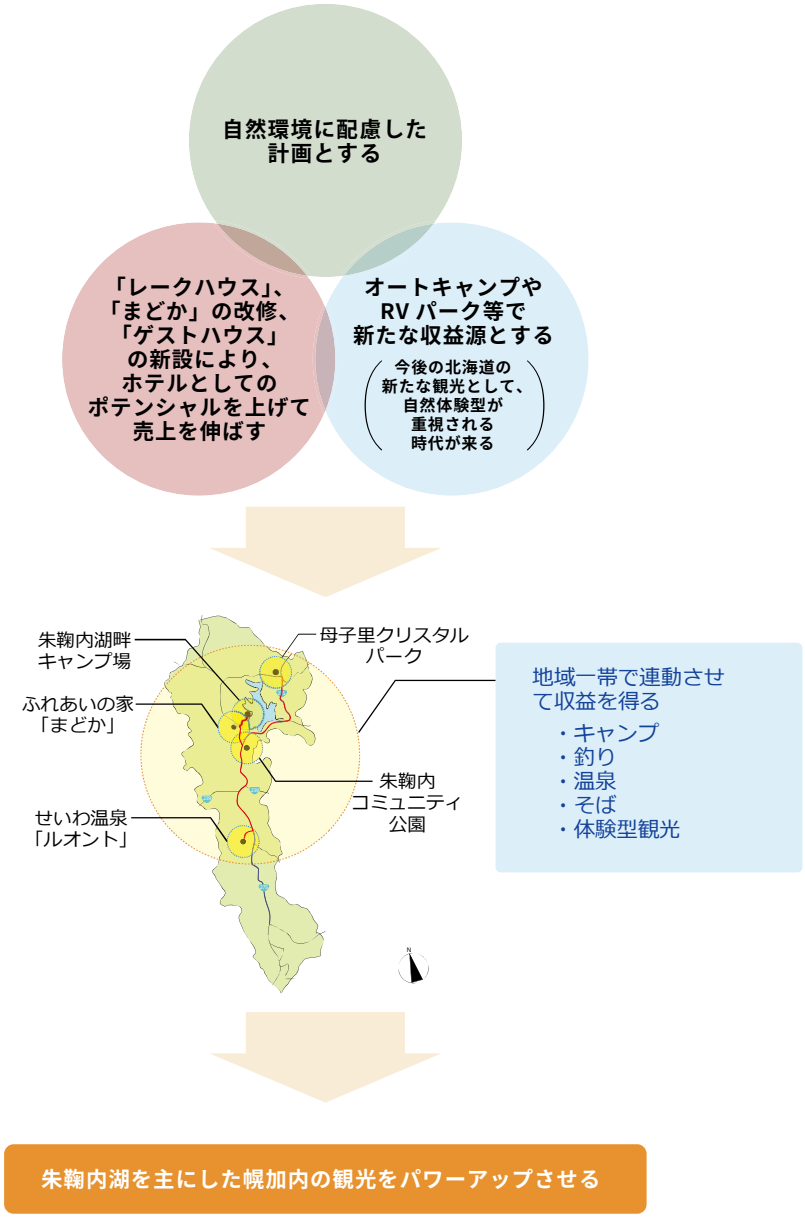
（特に今後北海道の新たな観光として、自然体験型観光が重視される時代が来ると考えられ、オートキャンプやRVパークは新たな収入源として期待されます。）

また朱鞠内湖を主とした観光資源・スポットを地域一帯で連動させることにより、キャンプ・釣り・温泉・そば・体験型観光、各々の収益の向上を図ることが可能と考えます。

それらの収益向上を助ける要素として、町外の人への情報発信が重要と考えます。具体的施策案としては、

・観光コンシェルジュの設置
(物産館に観光インフォメーションセンターを設置)
・幌加内を訪れる人のガイドとなるパンフレットやHP等、PR媒体の見直し
・幌高生がSNSでアピールする等、今の時代に合ったSNSの活用

以上の検討を要望します。



②朱鞠内湖畔キャンプ場

「抽出した問題-1：観光の付加価値の向上」への提言

既に取り組んでいるイトウ釣り等の自然資源を保護しつつ、活かす自然体験型観光を維持し、更なる付加価値向上を目指すために以下を提言します。

【ソフト面での提言】

・自然環境に配慮した計画が必要
・利用料のアップを実施し、入込み客の制限を図ることの検討を要望
・新たな客層を取り込むことの検討を要望
・キャンプ場から溢れた客を、町内他のキャンプ場で受け入れられる体制づくりの推進を要望
・中長期的な視点、かつ、段階的に計画を進めることを要望

【ハード面での提言】

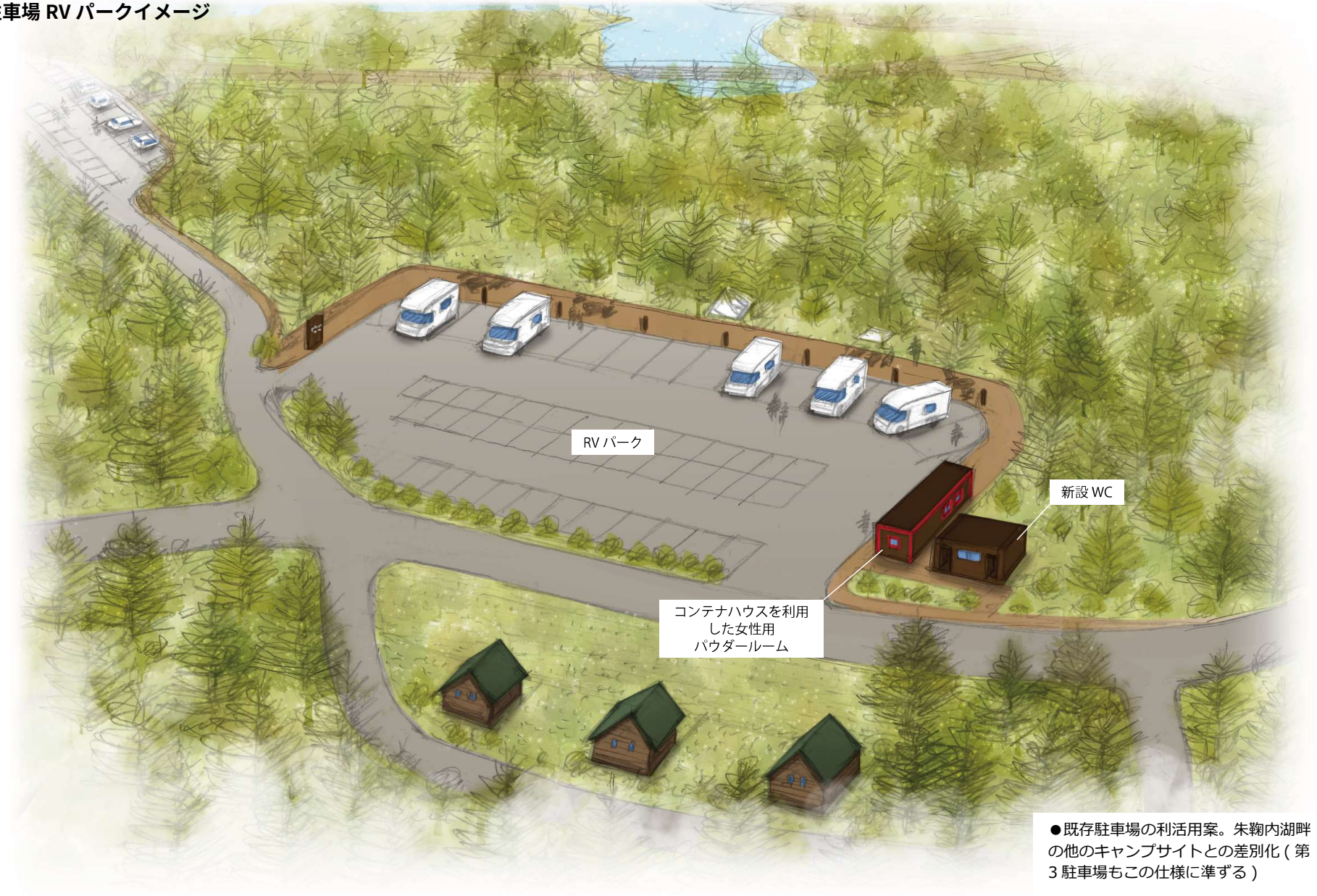
・オートキャンプ場や、RVパークの整備を要望
・トイレやパウダールームの整備を要望
・コンテナハウスの導入検討を要望

※RVパークとコンテナハウスの詳細は、4-2　「朱鞠内湖を主として観光のブランド化」への7つの提言-4参照

●朱鞠内湖畔キャンプ場航空写真

●第 2 駐車場 RV パークイメージ

※参考案



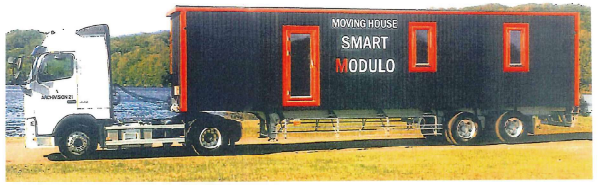
●既存駐車場の利活用案。朱鞠内湖畔の他のキャンプサイトとの差別化 (第 3 駐車場もこの仕様に準ずる)

●幌加内の観光戦略として有効と思われる仕掛け

・RV パーク参考写真

今後の北海道の観光として、キャンピングカーを活用した車中泊型周遊観光が、インバウンドや国内の富裕層を対象に新たな観光として有望視されています。
(RV パークの先進国:アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド)

・コンテナハウス参考写真



宿泊以外にガイドや従業員の住居としても有効です。キャンプやRVパークを利用する女性のためのパウダールーム、災害用仮設住宅、移住体験住宅等、様々に活用できます。

③レークハウスしゅまりない

「抽出した問題-1：観光の付加価値の向上」への提言

老朽化が進む施設で、共同風呂・トイレでもあるため、改修または新築が望まれていました。近年、釣り客の増加もあり、客室の増設が課題となっています。以上の点を踏まえて、提言をします。

【ソフト面での提言】

・釣り客を大事にしつつ、新たな客層を取り込むことの検討を要望

・中長期的な視点、かつ、段階的に計画を進めることを要望

【ハード面での提言】

・「レークハウスしゅまりない」の改修案

→・釣り客だけではなく、インバウンドやワ―ケーション客など新たな客層を取り入れることも考慮して、既存客室を残しつつ、客室の一部を段階的に2～3人用の洋室化し、各室シャワー、トイレを設置する改修案

・ワ―ケーション利用の為のWi-Fi環境を強化

・眺めの良い所へ、ゲストハウスを新設することを要望

→・インバウンドや富裕層に向けて、高級志向のゲストハウスを新設。朱鞠内湖の素晴らしいロケーションを室内から眺めることが出来るような、プライベート空間を提供する施設を整備

●レークハウスしゅまりない 1 階、2 階平面図

※参考案

●レークハウスしゅまりない客室イメージ

※参考案

レークハウス客室

※洋室化したイメージ

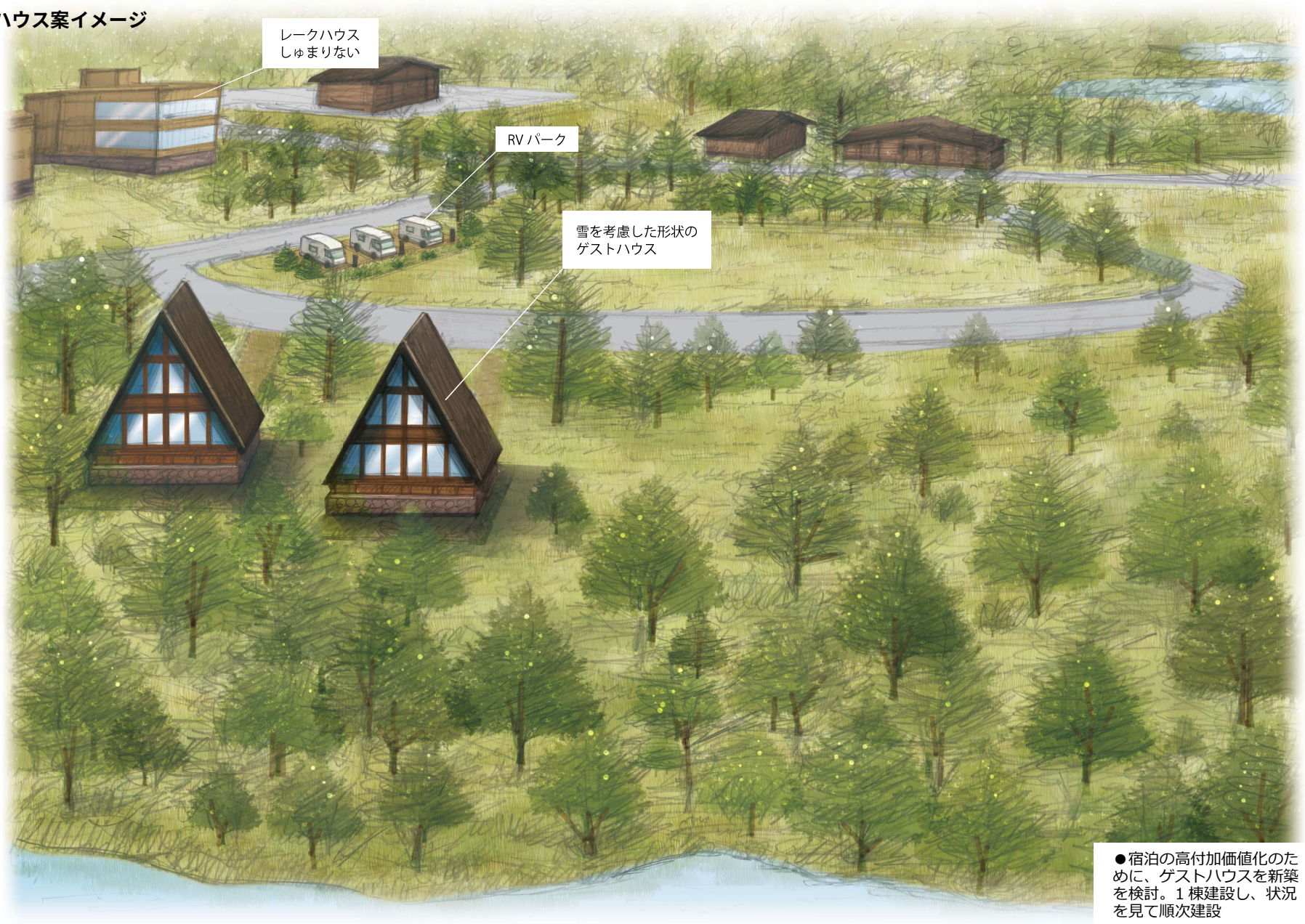
研修センター客室

※洋室化したイメージ

●各室にトイレ、洗面、シャワーを設置した場合。時代のニーズに合わせた、部屋の洋室化・ベッド化を検討

●ゲストハウス案イメージ

※参考案



●宿泊の高付加価値化のために、ゲストハウスを新築を検討。１棟建設し、状況を見て順次建設

④ふれあいの家「まどか」

「抽出した問題-1：観光の付加価値の向上」への提言
「抽出した問題-2：観光入込みを増やす」への提言

本来は小中学校の宿泊研修をメインに受け入れる施設ですが、少子化の影響で宿泊研修が減少傾向にあるため、新たな利活用として宿泊室である大部屋を個室化し、一般客も受け入れる体制に整備されることが望まれていました。

その他の「まどか」の重要な役割としては、朱鞠内湖畔エリアを補完する宿泊施設として、ハイシーズンに「レークハウス」で受け入れられなかった釣り客を、代わりに受け入れるということがあります。

建物自体は老朽化が進み、建物の大規模な改修時期になっています。以上の点を踏まえて、提言をします。

【ソフト面での提言】

・新たな客層を取り込むことの検討を要望
・中長期的な視点、かつ、段階的に計画を進めることを要望

【ハード面での提言】

・「まどか」の改修案
→・家族連れ等、新たな客層を取り入れることを考慮して、2～3人用の個室洋室化し、各室シャワー、トイレを設置
・朱鞠内湖畔エリアの補完的な位置づけとして、重要な施設のために、外壁塗装も一新
・オートキャンプ場、RVパークの整備を要望
→・カフェラウンジを設置、オートキャンプ場
RVパークと一体で利用する施設として整備

●まどか航空写真

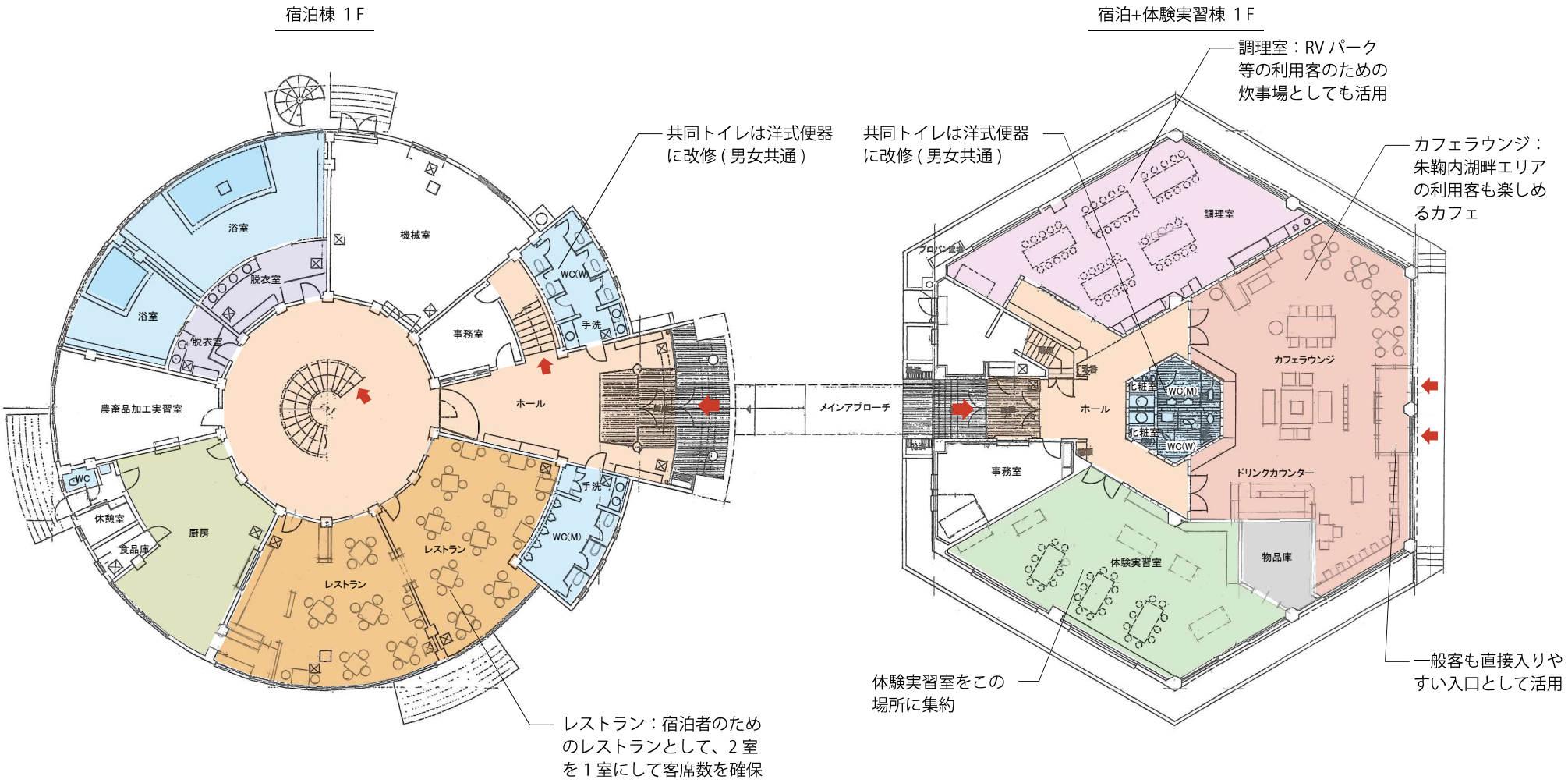
●ふれあいの家「まどか」外観イメージ

※参考案

●朱鞠内湖周囲の自然とマッチさせるため、各棟をアースカラーの茶色に一新。朱鞠内湖畔の補完的宿泊施設として、高付加価値化

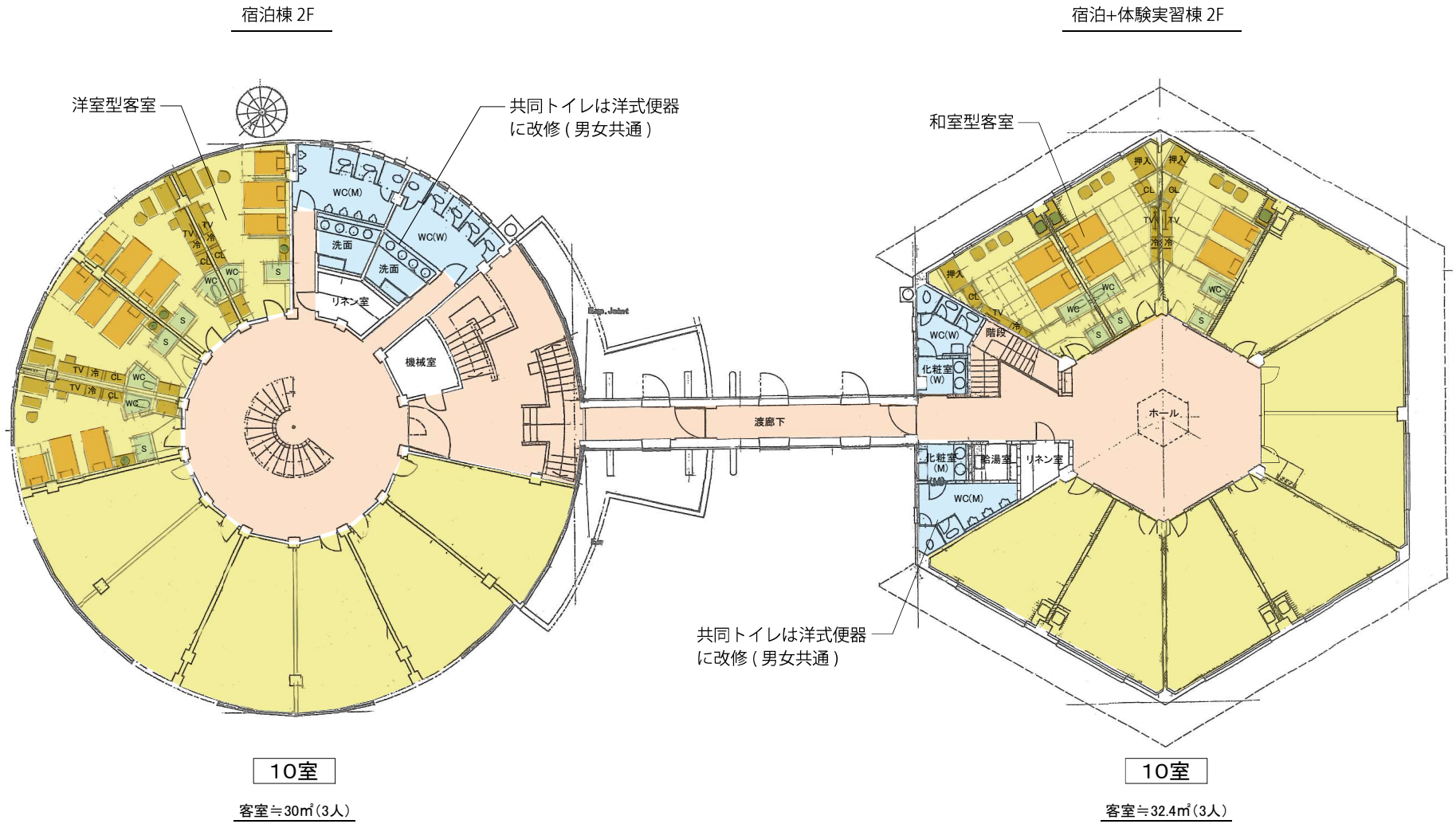
●ふれあいの家「まどか」1F 平面図

※参考案



●ふれあいの家「まどか」2F 平面図

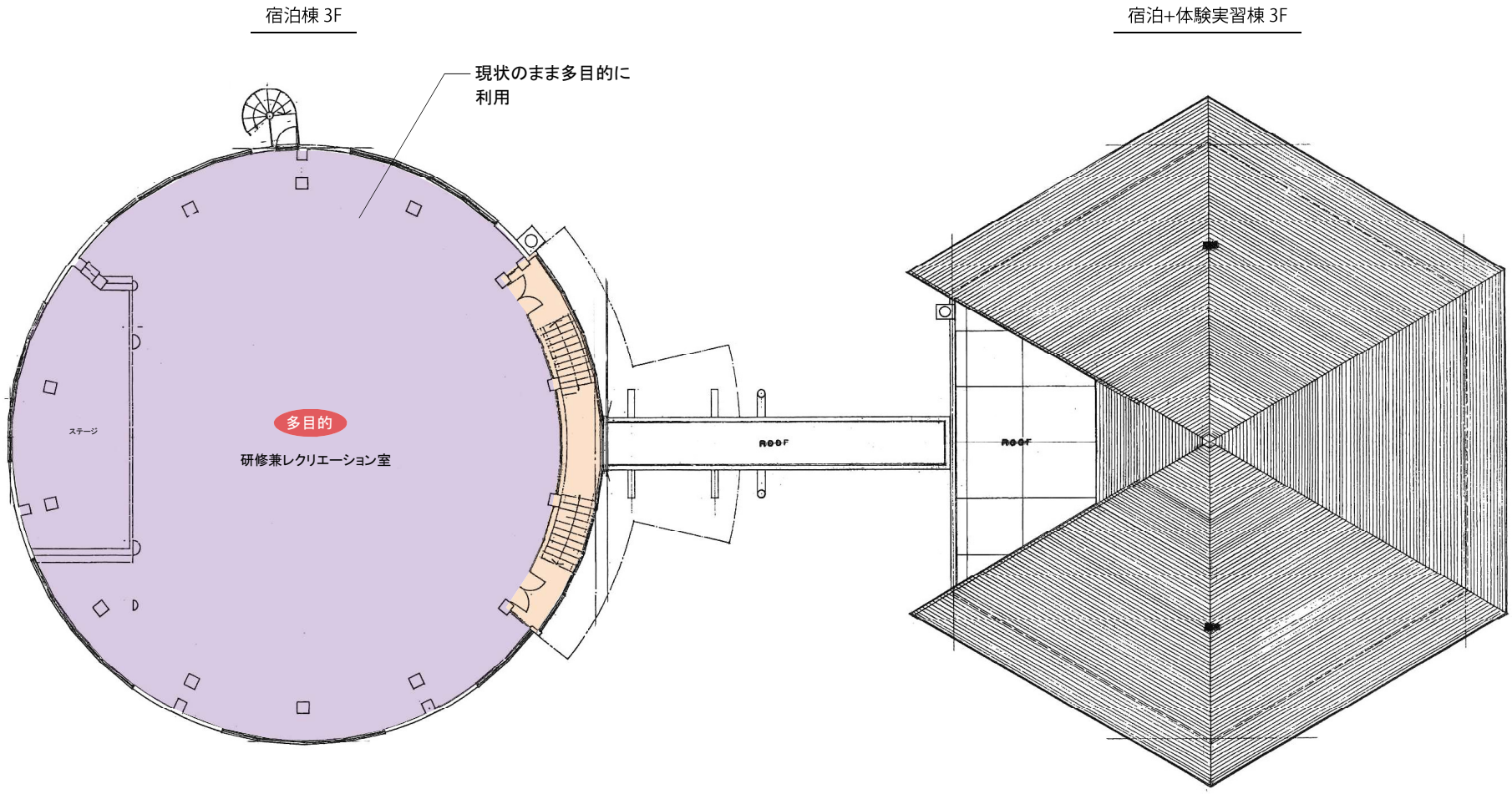
※参考案



●最大限客室にしたプラン

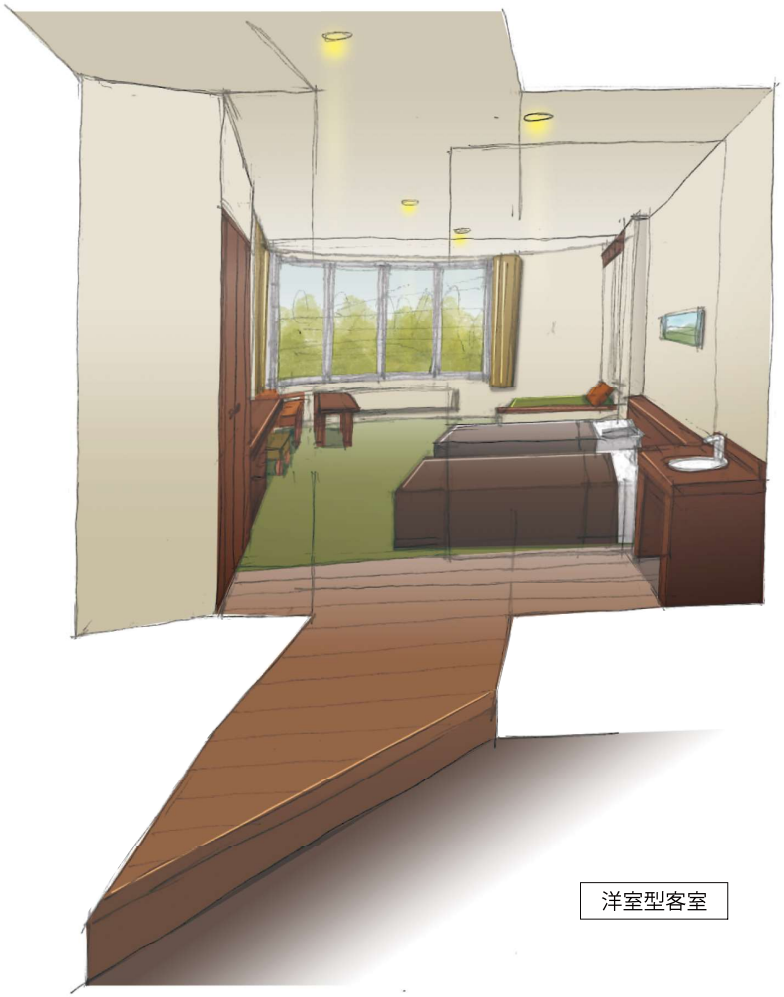
●ふれあいの家「まどか」3F 平面図

※参考案



●ふれあいの家「まどか」客室イメージ

※参考案



洋室型客室

和室型客室

●各室にトイレ、洗面、シャワーを設置した場合。団体型から個人型観光に変わって来ているため、時代のニーズに合わせた客室

●ふれあいの家「まどか」カフェラウンジイメージ

※参考案

●朱鞠内湖畔エリアの利用客も楽しめるカフェラウンジ。外からも直接入ることが出来る。朱鞠内湖畔と「まどか」の活性化、人の交流も兼ねた、利用者の憩いの場所

⑤母子里クリスタルパーク

「抽出した問題-1：観光の付加価値の向上」への提言
「抽出した問題-2：観光入込みを増やす」への提言

地域のコミュニティ公園として設置されましたが、近年利用者は減少傾向にあり、利活用の検討が求められています。公園内には元パークゴルフ場やイトウが生息する河川、川沿いには散策路があり自然資源が豊富です。近くには北海道大学雨竜研究林もあり、連携を取った計画とすることも考えられます。豊かな自然環境に配慮しながらも活かした計画とする為に、以下を提言します。

【ソフト面での提言】

- 自然環境に配慮した計画が必要
- 北海道大学との連携による自然学習体験を提案
- 中長期的な視点、かつ、段階的に計画を進めることを要望

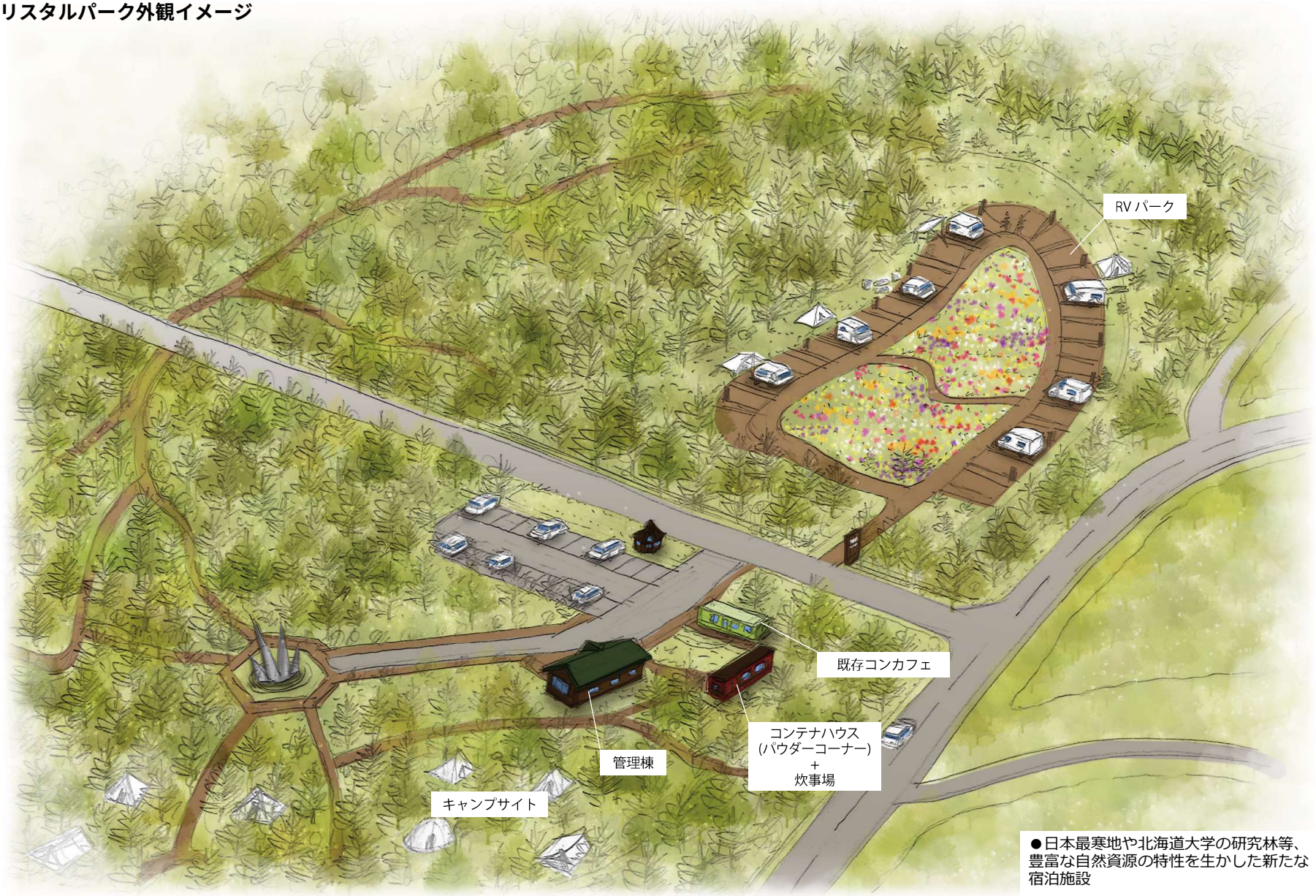
【ハード面での提言】

- オートキャンプ場や、RVパークの整備を要望
- パウダールーム用にコンテナハウスの導入検討を要望
- 炊事場の建設を要望
- 川辺の散策路整備を要望

●母子里クリスタルパーク航空写真

●母子里クリスタルパーク外観イメージ

※参考案



⑥朱鞠内コミュニティ公園

「抽出した問題-1：観光の付加価値の向上」への提言
「抽出した問題-2：観光入込みを増やす」への提言

地域のコミュニティ公園として地域住民に親しまれている反面、パークゴルフ場としての利用が著しく低下しており、他の利用方法の検討が必要とされています。

以上を踏まえて、提言をします。

【ソフト面での提言】

・運営者に関しては、検討が必要
・中長期的な視点、かつ、段階的に計画を進めることを要望

【ハード面での提言】

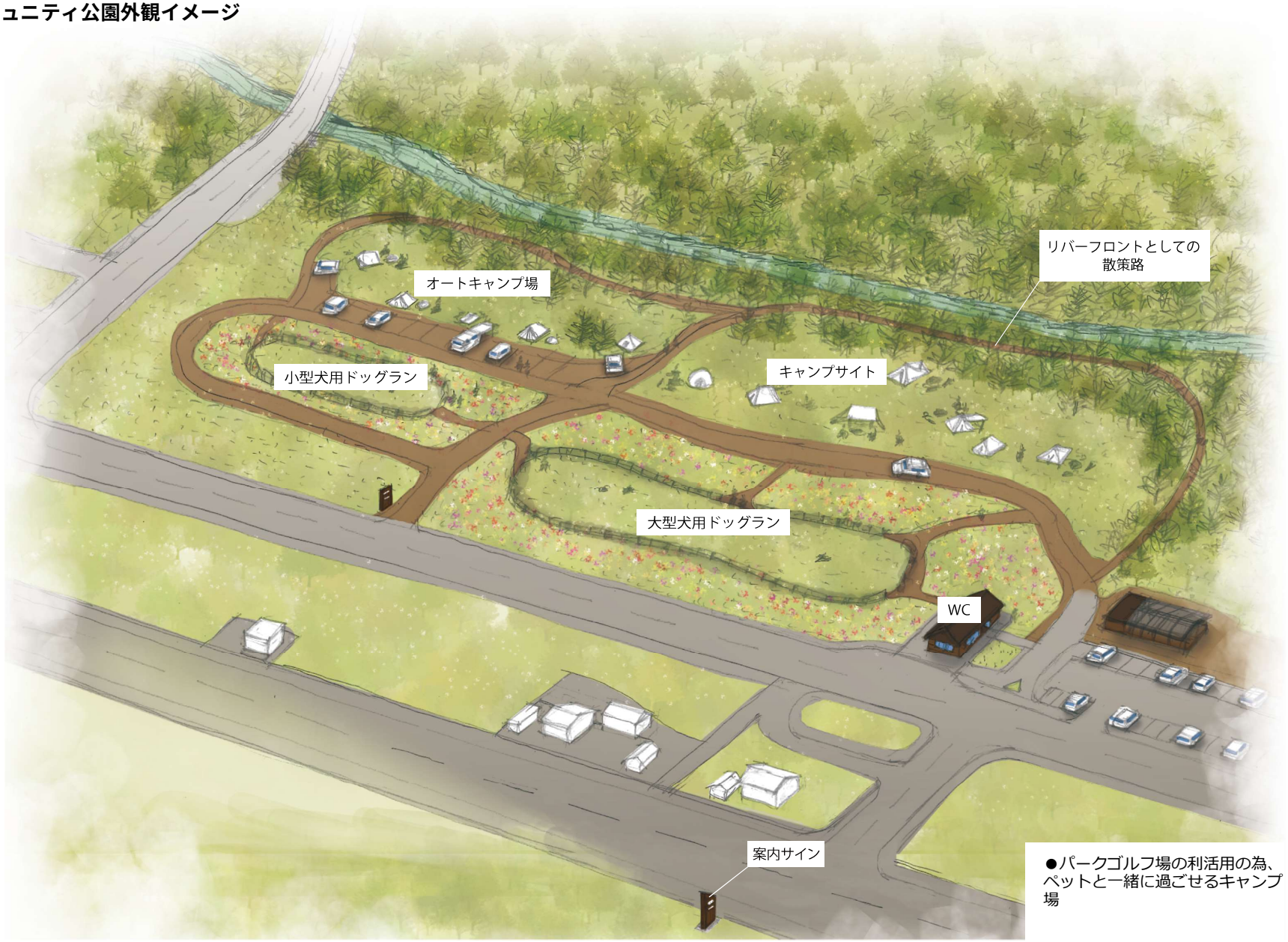
・ドッグラン整備を要望
・オートキャンプ場整備を要望
・川辺の散策路整備を要望

●朱鞠内コミュニティ公園航空写真

4-2　「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への7つの提言-18

●朱鞠内コミュニティ公園外観イメージ

※参考案



⑦せいわ温泉「ルオント」

「抽出した問題-1：観光の付加価値の向上」への提言
「抽出した問題-2：観光入込みを増やす」への提言

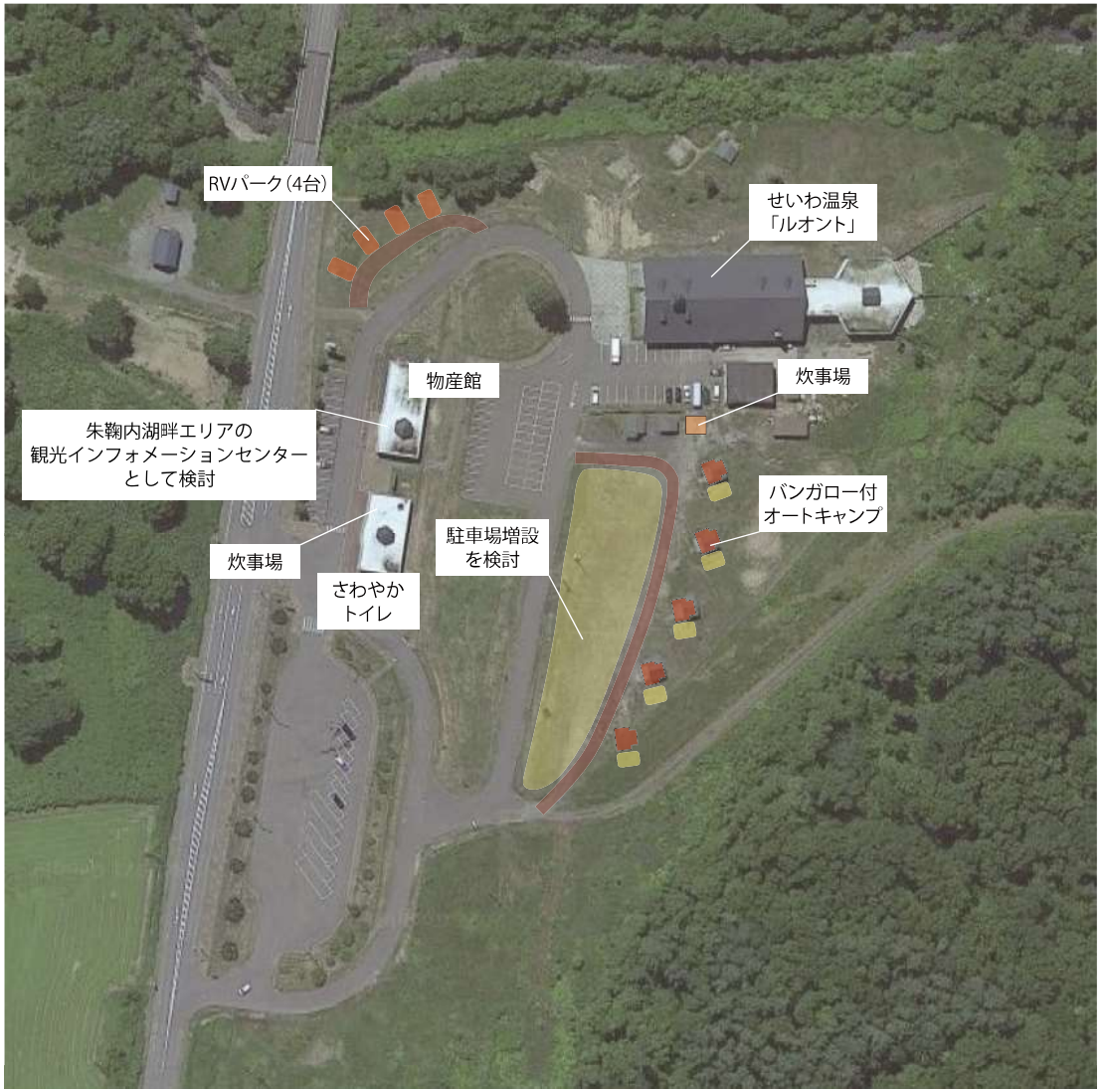
町内唯一の温泉施設として、町民の保養施設という側面と、町外からの観光客利用がある施設という側面を持っています。温泉施設であることや、朱鞠内湖畔エリアへの玄関口に位置することの利点を活かした計画を以下に提言します。

【ソフト面での提言】

- アウトドアメニューの拡充を要望(カヌーetc.)
- 中長期的な視点、かつ、段階的に計画を進めることを要望

【ハード面での提言】

- バンガロー付きオートキャンプ場整備、RVパーク整備を要望
- 駐車場増設の検討を要望
- 炊事場の建設を要望
- カヌーでの川下り体験の拠点として整備することを要望
- 物産館に観光インフォメーションセンター(観光コンシェルジュ)設置の検討を要望

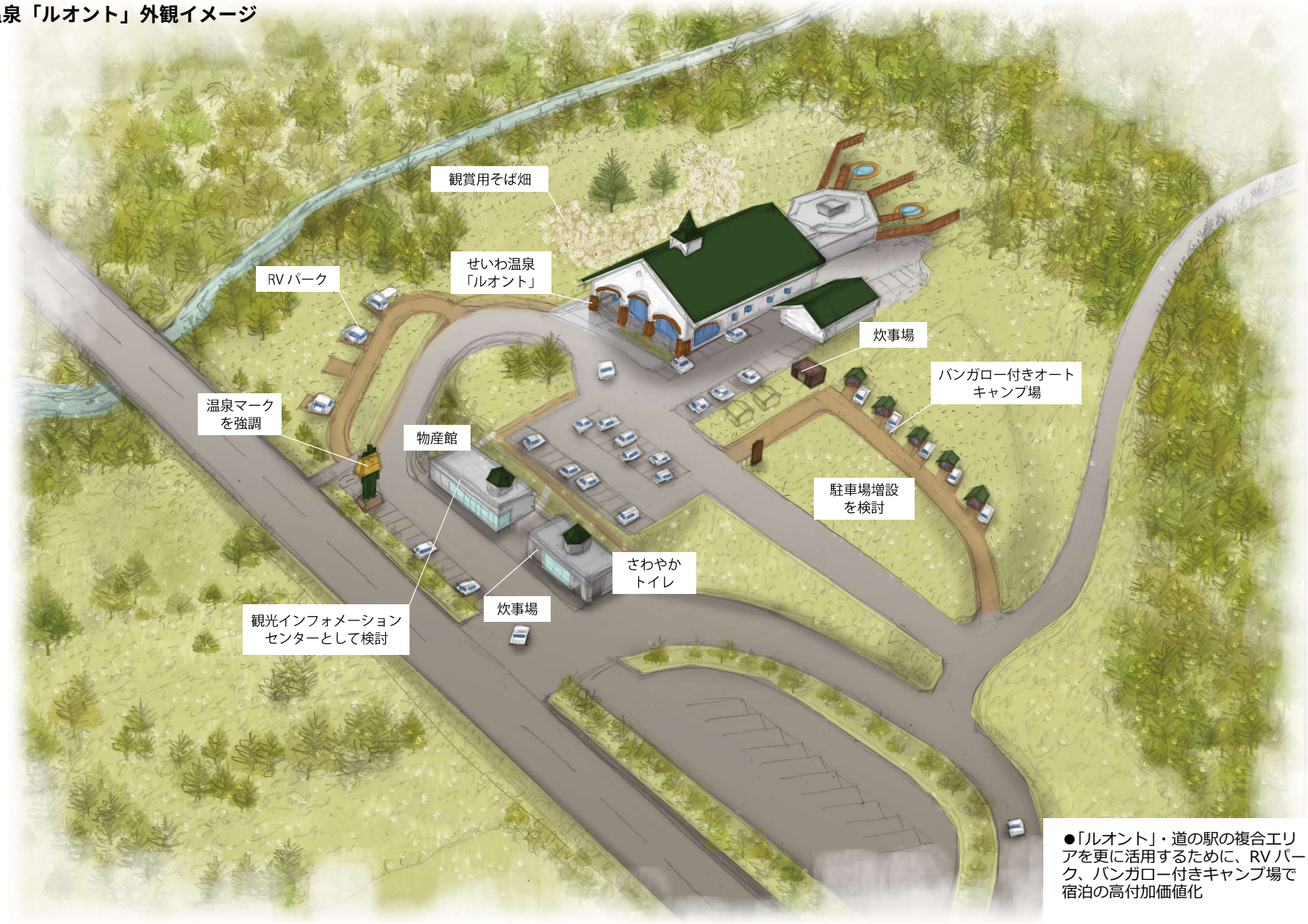


●ルオント航空写真

4-2　「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への7つの提言-20

●せいわ温泉「ルオント」外観イメージ

※参考案



●「ルオント」・道の駅の複合エリアを更に活用するために、RV パーク、バンガロー付きキャンプ場で宿泊の高付加価値化

第５章　提言Ⅳ「人材の育成・外部人材の活用」への提言

5-1　提言Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのための人材について-1

これまでの提言は「第 1 章 1-5 ビジョンへのコンセプト」の繰り返しになりますが、『皆が良くなるまちづくり』を進めるための提言として

提言Ⅰ「住みやすい町」
提言Ⅱ「そばのブランド化」
提言Ⅲ「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」

この 3 提言について WS で検討してきたもので、その根本には、

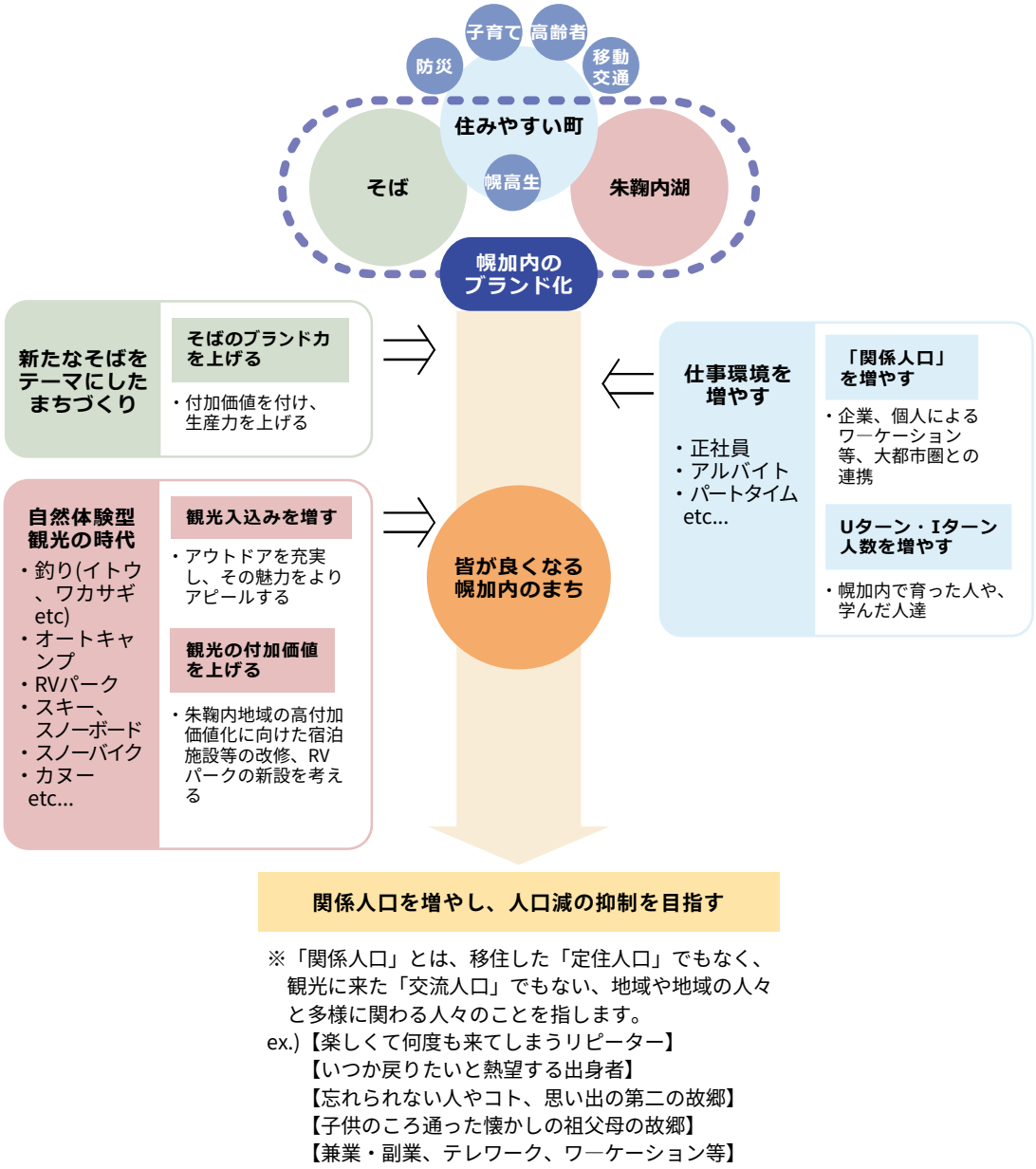
町民が一体となって取り組む町を目指す

というコンセプトがあります。

言い換えれば、仕組みや計画等のソフトや建物や公園等のハード、組織･団体等の運営が先にあるのではなく、それらの前に町民が一体となって取り組むという熱気が優先される町と言えます。

そのような熱気がある町で在り続けることによって、幌加内の「そば」や「朱鞠内湖」のブランド力がより向上し、定住人口が減少したとしても幌加内に立ち寄ったり、関心を持って関わってくれる人々（関係人口）が増えることを目指すというビジョンです。

しかしながら、これまでの提言Ⅰ･Ⅱ･Ⅲの多くは「検討を要望」に留まっています。それはそこに「人」の問題があることによります。「人手がない」「適した人材がいない」「誰がやるのか」といった現実的な問題です。そのような理由から、WS の最後の提言は「人」に関する提言としました。



※「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。
ex.)【楽しくて何度も来てしまうリピーター】
【いつか戻りたいと熱望する出身者】
【忘れられない人やコト、思い出の第二の故郷】
【子供のころ通った懐かしの祖父母の故郷】
【兼業・副業、テレワーク、ワーケーション等】

WS では、住みやすい町、そば、観光への町民の熱気をより活性化し、新たな繋がりを作る次のような人材が重要と考えます。

(仮称)住みやすい町コーディネーター

例えば、
誰にとっても「住みやすい町」であるために、
・移住や U ターン、I ターンを考えている人
・何かをやりたいと考えている人
・誰かと交流したいと考えている人
・誰かに相談したいと考えている人
と**それらを支援できる人**や**関係機関を繋げる役目 (＝コーディネーター)**

(仮称)そばブランド化コーディネーター

例えば、
「そばのブランド化」を進めるために、
・そば祭りについて何か関わりたい人
・そばの PR をしたい人
・全国のそば名産地と交流したい人
・こんな新商品はどうかなと思いついた人
と**それらを支援できる人**や**関係機関を繋げる役目 (＝コーディネーター)**

(仮称)観光ブランド化コーディネーター

例えば、
「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」を進めるために、
・ガイドを育成したい人
・ホテル運営を相談したり、支援してほしい人
・ホテルの予約システムを作りたい人
・働きたい人と雇用したい人
と**それらを支援できる人**や**関係機関を繋げる役目 (＝コーディネーター)**

このような人材を確保する方法として、

やってみたいと考えている人を発掘して育てる＝人材育成

スキルを有する外部人材を活用する　＝外部人材活用

の 2 パターンが考えられます。また**町内部の人材育成に、外部人材の活用をすること**も考えられます。

課題としては、
・人材育成や外部人材活用のための仕組みづくり
・「住みやすい町」「そば」「観光」各々の特性によって、人材育成と外部人材活用どちらがよいのか
・それらの人材の報酬はどうするのか
etc…

上記 3 点が考えられますが、それらも併せて、引き継ぎ検討していく必要があると考えます。

5-2　各コーディネーターの役割・活動イメージ-1

各コーディネーターの幌加内町での役割を、参考イメージとして下記にまとめました。

(仮称) 住みやすい町コーディネーター

・移住者や幌高生などの関係人口に当たる人たちの、町内での生活をバックアップするために、地域住民とのコミュニケーションの促進を図るようなイベント、場所を企画するコーディネーター
・将来的な人口問題を補うための大事な施策として、地域を挙げた子育て支援を推進する取り組みが必要で、それら取り組みと住民を繋ぐ為のコーディネーター

etc…

(仮称) そばのブランド化コーディネーター

・そばの生産量日本一という幌加内の特徴を、よりブランド化するために農業生産だけではなく、幌加内町全体としての6次産業化の一貫体制を構築することも考えられる。その際の商品開発や販売力強化の工程をサポートするコーディネーター
・そば畑の四季の景観アピールや、従来のイベントであるそば祭り等を、人口減少の将来に向けて、戦略的視点で構成し直すことが出来るようなコーディネーター

etc…

(仮称) 観光ブランド化コーディネーター

・朱鞠内湖を主とした幌加内観光をよりブランド化するために、これからは地域情報を持っている地元の人と共に、観光知識のある専門的な外部人材を活用しながら、チームによる活動が必要となる。その際の各観光施設の運営者、団体、ガイド、大学、観光協会、町やその他関係団体や個人との間で、横断的立場で活動できるようなコーディネーター

etc…

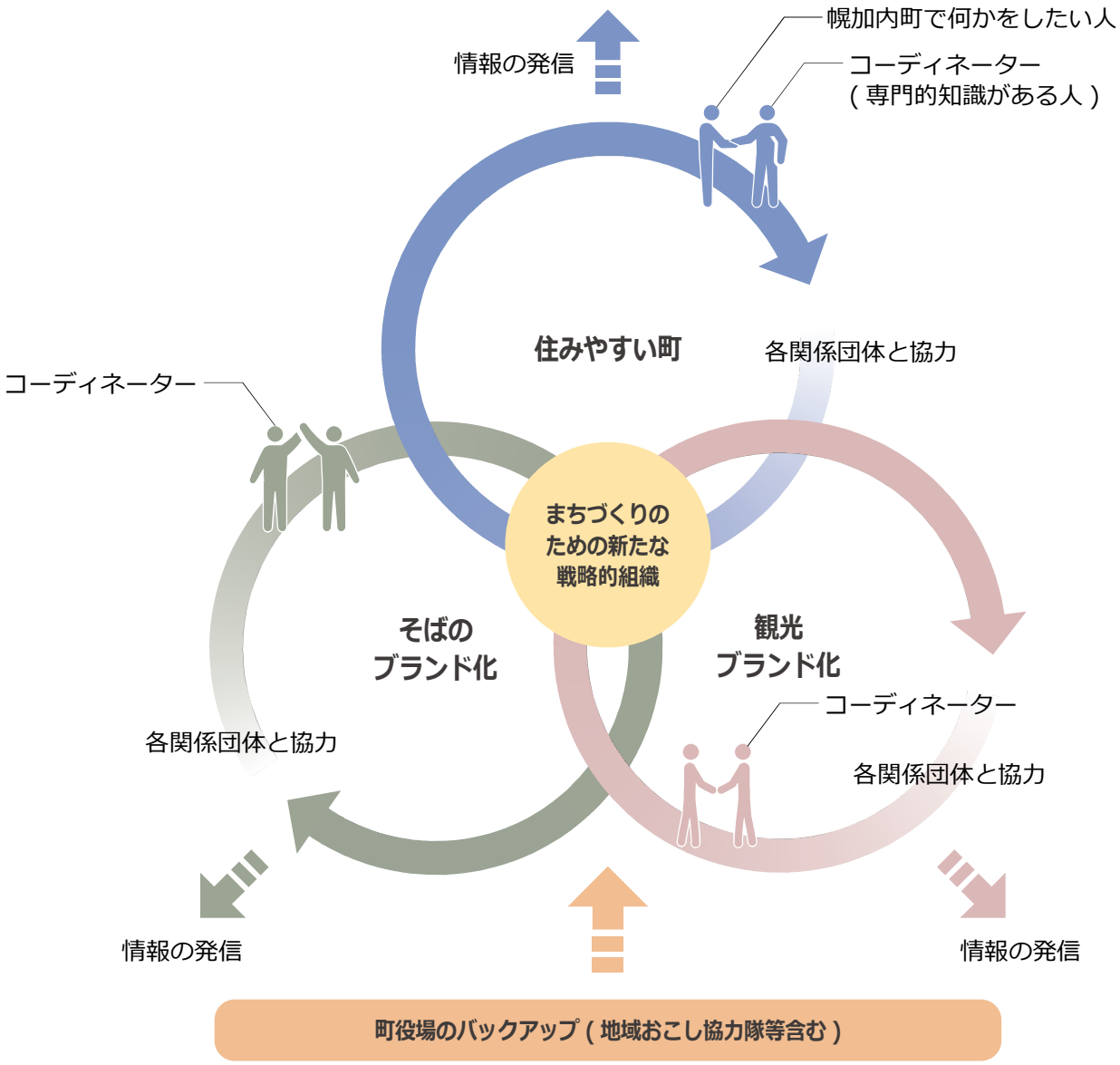
以上のような専門的知識を持つ人材が適任だと考えます。幌加内町に本当に必要なコーディネーターに関しては、今後も議論を重ねていく必要があります。

　このようなコーディネーターは、必要に応じて各分野の関係機関や団体・個人と連携を取る、いわば世話役的な活動イメージです。ただし、誰かが善意で行うのではなく、そういう立場の人が幌加内にいて、それを町民全てが知っていて協力支援してくれることが重要と考えます。また、コーディネーターの活動結果をSNS等で情報発信することで、町外から人を呼び込み、移住者や関係人口増加に繋げます。

　コーディネーターを町内で活用することで、幌加内の将来ビジョンが実行に移され、持続可能なまちづくりの実現が可能になると考えます。

※各コーディネーターに活躍してもらい、幌加内のブランド化を推進するためには、それをフォローする何らかの戦略的組織が必要と思われるため、今後の検討を要望します。

●幌加内の将来ビジョンを実行に移し、持続可能なまちづくりを実現する



第６章　提言Ｖ　オズからの提言

はじめに

幌加内の持続可能な新しいまちづくりビジョンの提言にあたり、令和3年4月から約1年間かけてワークショップの皆様と有意義な会議に関わらせていただき、幌加内の現状や問題点、そして今後の課題等について共に検討することが出来ました。それを踏まえ今回の当社からの提言にあたり、外部から見た客観的な視点としての意見を下記にまとめさせていただきましたので、ご参考のひとつとしていただければと考えます。

①ソフトからの持続可能なまちづくりを考える

幌加内の今後のまちづくりは、ハードだけではなく、ソフトの視点による持続可能な新しいまちづくりが必要となります。その実行のために、過去にとらわれない「新しいまちづくりの仕組み」をつくらなければなりません。

それは次世代のまちを担う若者の新たな視点が重要であり、若者を基本とした各世代間交流によるコミュニケーションによって、町民が10年、20年後の幌加内のまちの姿を共有化し、町民・企業・学校・役場等が一体となって取り組む総合的ビジョンのもと、戦略として「新しいまちづくりの仕組み」を推進すべきと考えます。

②子供や若者を基本としたまちづくりを考える

まちをひとつの家族とした場合、子供が元気なことで家庭の活気に繋がります。幌加内の保育園児、小学生、中学生、そして幌高生が皆元気で生き生きすることで、明るく活気ある持続可能なまちになっていくのではないでしょうか。

特に幌高生は親元から離れて暮らす生徒がほとんどで、不安なことも多いかと思います。幌高生には 3 年間ワクワクした高校生活になるよう町民をあげてバックアップし、若い力をバネにしたまちづくりで活力アップに繋がっていくと考えます。

したがって、まちの将来を見据え戦略的に、子供や幌高生に投資をすべきであり、小さなまちだからこそ実現できる、きめ細やかでぬくもりのあるまちづくりが出来れば、それが強みになると思います。

③稼ぐ喜び、コミュニケーションができる喜び

幌高生に稼ぐ喜びを体験してもらうために、農業や観光、カフェや将来のコンビニ等のアルバイトがあれば、より経済感覚が身に付きます。さらに地域の大人たちとコミュニケーションを図る機会にもなります。また、現代の社会問題になりつつあるコミュニケーション不足による孤立化も、カフェ等のコミュニケーションスペースがあれば、人のふれ合いの中で防ぐことが出来ます。子供から大人まで全世代がコミュニケーションを取ることができるカフェ等の設置は、まちの戦略的投資として重要ではないでしょうか。

④「新しいまちづくりの仕組み」による活力アップの実現

子供や幌高生を主体とした「新しいまちづくりの仕組み」とは、

(1) 幌加内の子供や幌高生に自分が住んでいる町のことを知ってもらい、愛着を持ってもらう機会をつくる

・幌加内は、朱鞠内の大自然とそば畑の景観が際立った地域であり、その恵まれた自然環境で育った子供や幌高生は、都会では体験できない感性が身についていく。それを更にレベルアップさせるには、スキー・キャンプ・イトウの釣りなどアウトドア体験、そば道場や食育、農業体験、さらに「あえる97」を活用した音楽体験、旧政和小学校のアート体験等、具体的体験メニューがもっと加われば、これこそが親の喜びであり、まちの喜びになり、そして将来の投資になる。

(2) 幌高生が卒業後に町で「住みやすい町コーディネーター」として活躍できるように、社会体験の場をつくる

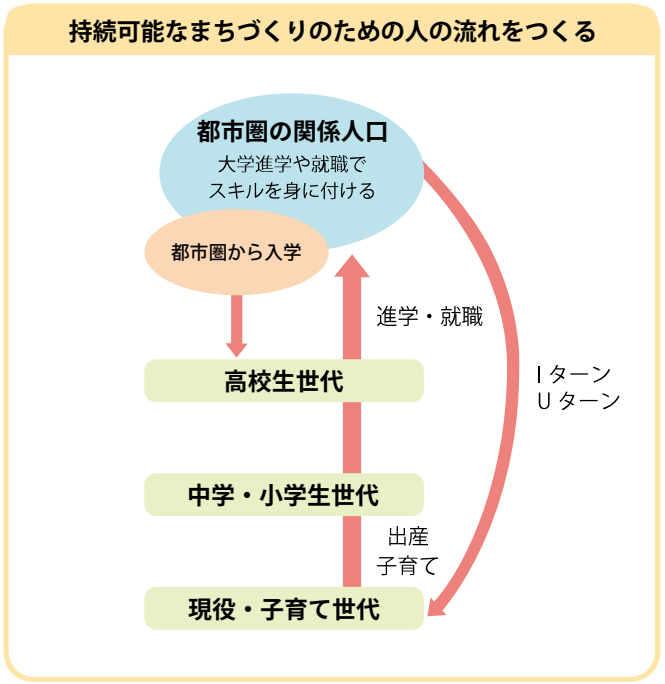
・大学在学中に夏休みなど長期の休みを利用して、社会体験の機会を多くつくる。そば祭り等のイベントや、アートフェス、朱鞠内湖のお手伝いをしながらコーディネーターとして担う役割を役場と作り上げていく。
・そのために必要なスキルを大学在学中に勉強したり、他の町の似たような立場の人と会う機会を設ける。
・スキル習得の費用を役場等がサポートすることを検討する。

etc...

以上のことが考えられます。また、子供や幌高生を主体としたこの「新しいまちづくりの仕組み」を始動させるためには、第 5 章の提言Ⅳ「人材の育成・外部人材の活用」による、住みやすい町コーディネーターなどの各コーディネーターの力が必要となるかもしれません。

⑤持続可能なまちづくりのための人の流れをつくり、常に若い活力があるまちを考える

・そば(食)と朱鞠内湖(観光)に特化したまちづくりで、幌加内の産業、経済を活性化し、移住者や関係人口を少しでも増やし、定住人口減少を補う。
・それと同時に子育て支援の制度を充実させることで、Iターン、Uターン人口を少しでも増やし、まちの平均年齢を下げながら持続可能な人の流れをつくる仕組みを構築する。



最後に

　幌加内町は町民が誇れる点として、手つかずの自然と素晴らしい景観、町民同士が仲のよい町という点が多く挙げられています。今後次世代に繋がる新たなまちづくりとして、小さなまちだからこそ、若者が住みやすくワクワクするまちを目指し、0 才から高校生までの教育に力を注ぎ、学校教育だけでなく、社会体験型教育として大人が家族のように子供たちに関わることが重要と感じます。幌加内の良いところを子供たちに継承し続けていくことが、持続可能なまちづくりのための人の流れをつくる第一歩となるのではないでしょうか。

　以上、オズからの提言として、参考にしていただければと思います。

第７章　時勢と地域に応じた取り組み

7-1　SDGs への取り組み -1

『SDGs』(エスディージーズ) とは、2015 年 9 月　国連総会で採択された、2030 年までに達成すべき持続可能な 17 の開発目標のことです。社会・経済・環境の 3 つの側面から捉える 17 のゴールを総合的に解決し、持続可能なよりよい未来を気づくことを目標にしています。各国の政府による取り組みだけでは達成が困難で、企業や地方自治体、アカデミーや市民社会、そして一人一人にいたるまで、すべての人の行動が求められているのが SDG s の大きな特徴です。

また、持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取組を推進するに当たって、このＳＤＧｓ の理念に沿って進めることにより、政策全体の全体最適化、地域課題解決の加速化という相乗効果が期待でき、地方創生の取組の一層の充実・深化につなげることができるとされています。このため、SDGs を原動力とした地方創生を推進することが期待されています。

7-1　SDGs への取り組み -2

幌加内町まちづくりビジョン策定委員が今回の WS において提言する将来のビジョンを、SDGs が掲げる 17 の開発目標と紐づけて整理することができます。その結果を下記に、図示します。幌加内町も今回の WS を切っ掛けとして、積極的に SDGs への取り組みを進めていかなければいけないと思います。

提言 I「住みやすい町」への提言

- ①既存各公共施設・各跡地の利活用 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ②地域交流の拡大 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ③関係人口の増加 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ④移動交通の充実 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ⑤子育て環境の充実 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ⑥高齢者の憩いの場の充実 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを
- ⑦防災に強いまちづくり ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを / 13 気候変動に具体的な対策を
- ⑧幌加内高等学校との連携強化 ⇒ 4 質の高い教育をみんなに / 11 住み続けられるまちづくりを
- ⑨買い物事情の充実 ⇒ 11 住み続けられるまちづくりを

提言 II「そばのブランド化」への提言

- ①ブランド力の向上 ⇒ 8 働きがいも経済成長も / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12 つくる責任つかう責任
- ②そば道場の活性化 ⇒ 4 質の高い教育をみんなに / 8 働きがいも経済成長も / 12 つくる責任つかう責任
- ③生産力の向上 ⇒ 8 働きがいも経済成長も / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12 つくる責任つかう責任

提言III「朱鞠内を主とした観光のブランド化」への提言

①観光のパワーアップ

■朱鞠内湖周辺の観光資源の高付加価値化を図り、 点在する観光資源・スポットを地域一体で連動させ、幌加内の観光各々の収益向上へ繋げる。それにより、 雇用創出・持続可能な観光業を促進

②朱鞠内湖畔キャンプ場　**⑤母子里クリスタルパーク**
③レークハウスしゅまりない　**⑥朱鞠内コミュニティ公園**
④ふれあいの家「まどか」　**⑦せいわ温泉「ルオント」**

■観光付加価値の向上 (②～⑦)：自然環境に配慮した計画、 既存施設の改修・ゲストハウス新設、 オートキャンプ場や RV パーク等の新たな収入源の創出により、 観光資源の高付加価値化を目指す。 むやみな開発をしない計画とし、 豊かな自然の持続可能な利用を推進

■観光入込みを増やす (④⑤⑥⑦)：観光付加価値の向上に伴い、 新たな客層を受け入れ観光収益向上を図り、 観光業の持続可能性を向上

⇒ 8 働きがいも経済成長も / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12 つくる責任つかう責任 / 15 陸の豊かさも守ろう

近年世界的に新型コロナウィルスが猛威を振るい、幌加内町も少なからず、その影響を受けました。ウィズコロナ・ポストコロナ社会へ向けて、感染症の拡大防止策と感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活の支援が急務となっています。

今回 WS の提言の中でも、幌加内町の今後の中心産業となりうる観光業に関するものは地域の実情に応じた効果的で、効率的なものになっています。幌加内町の観光業は、コロナ前からそのほとんどをアウトドアのキャンプやアクティビティに重点を置いており、これらを洗練させることでウィズコロナ・ポストコロナ社会を見据えた感染拡大防止と経済対策になりうると考えています。

下記に提言Ⅲ「朱鞠内湖を主とした観光のブランド化」への各提言に関連する、感染拡大防止、経済対策の考え方を示します。

①「朱鞠内湖を主とした観光のパワーアップ」への提言

・既存宿泊施設の増築、新築ではなく、戸建てのゲストハウス新築や、オートキャンプ、RVパークを町内各所に新設し新たな収入源とすることにより、3密を回避すると共に、町内全体の観光入込み客数を増やす。
・予約制で3密を回避する、屋外の自然体験型アクティビティを充実させる。
・将来的に観光コンシェルジュを設置し、朱鞠内湖畔キャンプ場に一極集中していたキャンプ客を、町内の各キャンプ場へ適切な人数を案内、分配していき3密を回避する仕組みをつくる。

②「観光の付加価値の向上」への提言
「観光入込みを増やす」への提言

・RVパークにコンテナハウスを併設し、パウダールームを整備することで、衛生環境に配慮する。
・レークハウスしゅまりない、ふれあいの家「まどか」に関しては、新たな客層を取り入れることを考慮して、客室を個室洋室化し、シャワー、トイレを設置して宿泊客の満足度を上げるとともに、宿泊客同士の不要な接触を避け、衛生環境に配慮する。
・レークハウスしゅまりない及び朱鞠内湖周辺に関しては、ワ―ケーション利用のためのWi-Fi環境を強化し、働き方改革を推進していく。

●委員名簿

今回参加いただいた委員の皆さんの名簿と、一人一人が思う幌加内の良いところを記載します。

幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ　委員名簿

委員

番号	氏　　名	選任区分	役員名・部会名
1	稲見　隆浩	議員	観光副部会長
2	蔵前　文彦	議員	まちづくり
3	仙丸　孝司	農業	まちづくり
4	畑　　正志	農業	代表
5	北村　えみ	農業	観光
6	西岡　文弘	水産業	観光
7	阿部　伸啓	商工業	まちづくり
8	古屋　大輔	観光業	観光
9	古屋　幹江	子育て世代	まちづくり
10	市村　美希	子育て世代	副代表、まちづくり部会長
11	高橋　将子	子育て世代	まちづくり副部会長
12	宮川　道子	子育て支援	まちづくり
13	松本　千代美	高齢者支援	まちづくり
14	樋川　太地	教育関係	副代表、観光部会長
15	飯沼　剛史	町職員	まちづくり
16	滝本　裕理香	町職員	観光
17	橋本　暁人	町長特認	まちづくり
18	浅坂　夏華	町長特認	観光

オブザーバー

番号	氏　　名	所　　属　　等
1	小笠原　利治	株式会社　オズ　代表取締役
2	廣田　陽子	株式会社　オズ　デザイン室長
3	渡邊　陽一	株式会社　オズ　（パートナー）
4	増岡　新吾	株式会社　オズ

事務局

番号	氏　　名	所　　属　　等
1	新江　和夫	地域振興室長
2	松本　隆史	地域振興室企画振興係長
3	梅津　孔希	地域振興室企画振興係
4	清原　吉典	産業課長
5	安芸　　修	産業課主幹（兼経済観光係長）
6	大家　　優	産業課経済観光係

WS 策定委員が思う幌加内の良いところ

・大雪とすごく寒いということが、本州の人からすると魅力的なこと。

稲見委員

・雪が多くとても寒い。
・そばの生産量日本一。
・北海道一の雪質。

蔵前委員

・蕎麦が美味しい。
・自然が豊富。
・福祉支援が手厚い。
・除雪がきれい。

仙丸委員

・一番の魅力は自然。空が近く、春夏秋冬をしっかり感じられたりする。
・人口が少ないので、横のつながりが強いというのも魅力。

畑委員

・四季を通して、何気ない所でも写真映えするところが沢山ある。
・星がきれいなところ。
・コンビニがないぐらい田舎というのも、逆に自慢になると思う。

北村委員

・普段味わえない都会の方にとっては、四季を通して自然環境の変化が大きいところが魅力的と感じる。

西岡委員

・静かなところが良いところ。都会に住んでいるよりは、何の音もしないし、外で焼き肉をしようが誰かに見られることもない。人に気を使わなくて良いところが一番良い。

阿部委員

・強烈に移り変わっていく四季が魅力。何気ない日常風景も、声を上げるくらいきれいな景色。
・除雪がしっかりしているところ。
・人口が少ないゆえに、のびのびと暮らせるところ。

古屋(大)委員

・自然に恵まれていて、夏はそばの花で白い絨毯のような景色が見れたり、冬は大人から子供までウィンタースポーツができる。

古屋(幹)委員

・学校で年上の子年下の子関係なく、仲良く遊んでいるのが良い。
・コロナ禍で感じたが、ワクチンの供給がすごく良い。ワクチンが足りなくても、幌加内は確実に予防接種を受けられる。

市村委員

・雪が多くて、寒いところ。年に一度はニュースで町の名前が読み上げられる。
・小学校6年生の息子に、幌加内町の良いところは？と聞いてみたら、みんな仲良しと言っていた。

高橋委員

・保育園で園児と雪山で遊ぶというのも豪雪地帯ならでは。
・除雪がすごくきれいにされているところ。

宮川委員

・除雪の素晴らしさ。どんなに雪が降っても、車は通れる。自宅前まできれい。
・沢山良い山菜があるところ。

松本委員

・コンパクトシティなところ。高校生の意見を聞いてくれる町、教育としてもこじんまりとした中で取り組みができるところが魅力。

樋川委員

・朱鞠内湖だとか、山とか自然が豊富で、山菜だとか資源も豊富なところ。
・人口が少ないがゆえに、小回りが利くところ。

飯沼委員

・保健師として、小児から高齢者まで幅広い年代に関わることが出来て、自分たちの世代だけでなくて、世代間の交流ができるというところが、幌加内の良いところ。

滝本委員

・幌加内高校が一つの魅力。高校に在籍をして、情報発信をしているが、フォロワーで見てくれている人の良い反応が直に見て取れる。

橋本委員

・自然が他地域より豊か。
・幌加内産のそば粉がとてもいい。
・町民同士の仲がいい。
・保障や免除が手厚い(住民思い)
・町をより良くしようとする姿勢。

浅坂委員

最後に

このワークショップ（以下「WS」と略）により、幌加内町が将来、人口が減少しても住民が協力し合い「心が豊かに暮らせる町」「住んでて良かった町」になるよう、次の時代を担う世代を代表して、１８名の委員で１年間という短い期間ではありましたが、大小２１回のWSを開催し、意見を出し合い、提言としてまとめました。

このWSを通じ、自分たちが住む町を見つめ直し「まちづくり」に対し、「自分たちが考えていかなければいけない。」という、強い意識を全委員が共通して感じたと思います。

また、町内に暮らす住民の豊かさを優先しつつ、町外者や幌加内町に訪れる人達に対しても「魅力的な町」「訪れたくなる町」「住みたくなる町」にしていくよう、地域振興や観光振興にも知恵を出し合わなければいけないと、強く感じました。

オブザーバーとして参画いただきました、株式会社オズ小笠原社長様をはじめ、委員各位のご協力に感謝と御礼を申し上げます。

今回の提言は、一部の若い世代の委員によるものではありますが、この提言がより良いまちづくりの推進の一助となる事を、切に願い結びといたします。

令和 4(2022) 年 2 月

幌加内町まちづくりビジョン策定ワークショップ

代表　畑　正志